

Novell Identity Manager

3.0

December 13, 2005

アクセサリポートレットリファレンスガイド

www.novell.com



Novell®

保証と著作権

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本書の内容または本書に起因する結果に関して、いかなる表示も行いません。また、本書の商品性、および特定用途への適合性について、いかなる黙示の保証も行いません。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本書の内容を改訂または変更する権利を常に留保します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、このような改訂または変更を個人または事業体に通ずる義務を負いません。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、すべてのノベル製ソフトウェアについて、いかなる保証、表明または約束も行っていない。またノベル製ソフトウェアの商品性、および特定の目的への適合性について、いかなる黙示の保証も否認し、排除します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、ノベル製ソフトウェアの内容を変更する権利を常に留保します。

本契約の締結に基づいて提供されるすべての製品または技術情報には、米国の輸出管理規定およびその他の国の貿易関連法規が適用されます。お客様は、すべての輸出規制を遵守し、製品の輸出、再輸出、または輸入に必要なすべての許可または等級を取得するものとします。お客様は、現在の米国の輸出除外リストに掲載されている企業、および米国の輸出管理規定で指定された輸出禁止国またはテロリスト国に本製品を輸出または再輸出しないものとします。お客様は、取引対象製品を、禁止されている核兵器、ミサイル、または生物化学兵器を最終目的として使用しないものとします。本ソフトウェアの輸出については、www.novell.co.jp/info/exports/expmtx.html または www.novell.com/ja-jp/company/exports/ もあわせてご参照ください。弊社は、お客様が必要な輸出承認を取得しなかったことに対し如何なる責任も負わないものとします。

Copyright © 1997, 1998, 1999, 2000, 2001, 2002, 2003, 2004-2005 Novell, Inc. All rights reserved. 本書の一部または全体を無断で複製、写真複写、検索システムへの登録、転載することは、その形態を問わず禁止します。

本書に記載された製品で使用されている技術に関連する知的所有権は、弊社に帰属します。これらの知的所有権は、<http://www.novell.com/company/legal/patents/> に記載されている 1 つ以上の米国特許、および米国ならびにその他の国における 1 つ以上の特許または出願中の特許を含む場合があります。

本ソフトウェアとそのドキュメントに対する権利、特許、著作権、およびそれに対して適用可能なその他すべての財産権は、あらゆる場合において、単独でおよび独占的に Novell とそのライセンス許諾者に留まるものであり、ユーザはこのような権利に矛盾する行為を一切取らないものとします。本ソフトウェアは著作権法および国際条約の条項によって保護されています。ユーザは、本ソフトウェアまたはそのドキュメントから著作権表示またはその他の登録商標権の表示を取り除かないものとし、本ソフトウェアまたはそのドキュメントのコピーあるいは抽出物すべての当該の表示を複製する必要があります。ユーザは本ソフトウェアの所有権を取得することにはなりません。

Novell, Inc.
404 Wyman Street, Suite 500
Waltham, MA 02451
U.S.A.
www.novell.com

オンラインマニュアル: 本製品とその他の Novell 製品のオンラインマニュアルにアクセスする場合や、アップデート版を入手する場合は、www.novell.com/documentation をご覧ください。

Novell の商標

Novell は、Novell, Inc. の米国およびその他の国における登録商標です。

SUSE は、米国 Novell, Inc. の米国およびその他の国における登録商標です。

サードパーティ資料

サードパーティの商標は、それぞれの所有者に属します。

第三者の保証と著作権

The Apache Software License, Version 1.1

Copyright (c) 2000 The Apache Software Foundation. All rights reserved.

ソースおよびバイナリの形式における再配布および使用は、変更の有無にかかわらず、次の条件を満たした場合に許可されます。

1. ソースコードを再配布する場合は、上記の著作権表示、諸条件のリスト、および次の免責事項を保持する必要があります。
2. バイナリ形式での再配布では、そのドキュメントまたは配布に付属する他の資料、あるいはその両方に、上記の著作権表示、本諸条件リスト、および次の免責事項を複製する必要があります。
3. 再配布に付属するエンドユーザマニュアルがある場合は、次の謝辞を含める必要があります。「本製品には Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>) によって開発されたソフトウェアが含まれています。」

本謝辞は、ソフトウェア自身に表示することもでき、通常第三者の謝辞が表示される場所であればどこにでも表示できます。

4. 書面による事前の許可なしに、「Apache」および「Apache Software Foundation」という名称を、本ソフトウェアから派生した製品の保証または販売促進のために使用してはなりません。書面による許可については、apache@apache.org までお問い合わせください。
5. Apache Software Foundation の書面による事前の許可なしに、本製品から派生した製品を「Apache」と呼んだり、製品名に「Apache」と記載したりすることはできません。

本ソフトウェアは「現状のまま」提供されるものとし、明示暗示を問わず、商品性および特定目的に対する適合性の保証も含め、いかなる保証もなされません。いかなる場合においても、APACHE SOFTWARE FOUNDATION またはその貢献者は、直接的、間接的、付随的、特殊的、例示的、または結果的な損害（代替商品またはサービスの調達、使用不能、データの紛失、または利益の逸失、あるいは事業の中断を含むが、これらに限定されない）に対して、契約行為、厳格責任、不法行為（不注意または別の方法を含む）を含め、責任の理論にかかわらず、たとえかかる損害の発生の可能性を知らされていた場合であっても、一切責任を負いません。

Autonomy

Copyright ©1996-2000 Autonomy, Inc.

Bouncy Castle

License Copyright (c) 2000 - 2004 The Legion Of The Bouncy Castle (<http://www.bouncycastle.org>)

本ソフトウェアのコピーおよび関連マニュアルファイル（「本ソフトウェア」）を入手した任意の人物に対し、本ソフトウェアの使用、コピー、変更、マージ、公開、配布、サブライセンス、または販売、あるいはこれらすべてを行う権利を制限することなく、ここに、制限なしに本ソフトウェアを扱う許可を無償で与え、当該目的で本ソフトウェアが提供された人物に対し、次の条件に従って、許可を与えます。

本ソフトウェアのすべてのコピーまたは大部分に上記の著作権表示と本許可の表示を含める必要があります。

本ソフトウェアは、販売可能性に関する保証、特定の用途に対する適合性、および権利侵害を含むがこれらに限定されないいかなる保証も、明示的または黙示的を問わず一切なしに、「現状のまま」提供されるものです。いかなる場合においても、著者または著作権保持者は、主張、損害、またはその他の責任に対し、本ソフトウェアの使用または本ソフトウェアとの関連、あるいは本ソフトウェアを他の方法で扱ったことから生じる契約の訴訟、不法行為、またはその他においても、一切責任を負いません。

Castor Library

オリジナルのライセンスは、<http://www.castor.org/license.html> に掲載されています。

本プロジェクトのコードは、BSD と同様のライセンス「license.txt」に従ってリリースされています。

Copyright 1999-2004 (C) Intalio Inc., and others. All Rights Reserved.

本ソフトウェアおよび関連マニュアル(「本ソフトウェア」)の再配布および使用は、変更の有無にかかわらず、次の条件を満たした場合に許可されます。

1. ソフトウェアコードの再配布では、著作権の記述および表示を保持する必要があります。再配布においても、本書のコピーを含める必要があります。
2. バイナリ形式での再配布では、そのドキュメントまたは配布に付属する他の資料、あるいはその両方に、上記の著作権表示、本諸条件リスト、および次の免責事項を複製する必要があります。
3. Intalio Inc. の書面による事前の許可なしに、「ExoLab」という名称を、本ソフトウェアから派生した製品の保証または販売促進のために使用してはなりません。書面による許可については、info@exolab.org までお問い合わせください。
4. Intalio Inc. の書面による事前の許可なしに、本ソフトウェアから派生した製品を「Castor」と呼んだり、ソフトウェアの名称に「Castor」と記載したりすることはできません。Exolab、Castor、および Intalio は Intalio Inc. の商標です。
5. ExoLab に対する当然の賞賛は、プロジェクト (<http://www.exolab.org/>) に与えてください。

本ソフトウェアは INTALIO および貢献者によって「現状のまま」提供されるものであり、販売可能性に関する保証の黙示的保証を含む明示的または黙示的保証、および特定の用途に対する適合性はすべて放棄されます。いかなる場合においても、INTALIO またはその貢献者は、直接的、間接的、付随的、特殊的、例示的、または結果的な損害(代替商品またはサービスの調達、使用不能、データの紛失、または利益の逸失、あるいは事業の中断を含むが、これらに限定されない)に対して、契約行為、厳格責任、不法行為(不注意または別の方法を含む)を含め、責任の理論にかかわらず、たとえかかる損害の発生の可能性を知らされていた場合であっても、一切責任を負いません。

Indiana University Extreme! Lab ソフトウェアライセンス

Copyright (c) 2002 Extreme! Lab, Indiana University. All rights reserved.

ソースおよびバイナリの形式における再配布および使用は、変更の有無にかかわらず、次の条件を満たした場合に許可されます。

1. ソースコードの再配布では、上記の著作権表示、諸条件のリスト、および次の免責事項を保持する必要があります。
2. バイナリ形式での再配布では、そのマニュアルまたは配布に付属する他の資料、あるいはその両方に、上記の著作権表示、諸条件のリスト、および次の免責事項を複製する必要があります。
3. 再配布に付属するエンドユーザマニュアルがある場合は、次の謝辞を含める必要があります。「本製品には Indiana University Extreme!Lab (<http://www.extreme.indiana.edu/>) によって開発された製品が含まれています。」

本謝辞はソフトウェア自身に表示することもでき、通常第三者の謝辞が表示される場所であればどこにでも表示できます。

4. 書面による事前の許可なしに、「Indiana University」および「Indiana University Extreme! Lab」という名称を、本ソフトウェアから派生した製品の保証または販売促進のために使用してはなりません。書面による許可については、<http://www.extreme.indiana.edu/> までお問い合わせください。
5. Indiana University の書面による事前の許可なしに、本製品から派生した製品で「Indiana University」という名称を使用したり、製品名に「Indiana University」と記載したりすることはできません。

本ソフトウェアは、「現状のまま」提供されます。商品性、特定目的への適合性の保証を含む、明示または暗黙によるいかなる保証も行われません。いかなる場合においても、作者またはその貢献者は、直接的、間接的、付随的、特殊的、例示的、または結果的な損害(代替商品またはサービスの調達、使用不能、データの紛失、または利益の逸失、あるいは事業の中断を含むが、これらに限定されない)に対して、契約行為、厳格責任、不法行為(不注意または別の方法を含む)を含め、責任の理論にかかわらず、たとえかかる損害の発生の可能性を知らされていた場合であっても、一切責任を負いません。

JDOM.JAR

Copyright (C) 2000-2002 Brett McLaughlin & Jason Hunter. All rights reserved.

ソースおよびバイナリの形式における再配布および使用は、変更の有無にかかわらず、次の条件を満たした場合に許可されます。

1. ソースコードの再配布では、上記の著作権表示、諸条件の本リスト、および次の免責事項を保持する必要があります。
2. バイナリ形式での再配布では、そのマニュアルまたは配布に付属する他の資料、あるいはその両方に、上記の著作権表示、諸条件の本リスト、およびこれらの条件に従った免責事項を複製する必要があります。
3. 「JDOM」という名称を、本ソフトウェアから派生した製品の保証または販売促進のために使用してはなりません。書面による許可については、license@jdom.org にお問い合わせください。
4. JDOM Project Management (pm@jdom.org) の書面による事前の許可なしに、本製品から派生した製品を「JDOM」と呼んだり、製品名に「JDOM」と記載したりすることはできません。

さらに、再配布に付属するエンドユーザマニュアル、またはソフトウェア自体の中、あるいはその両方に、次と同等の謝辞を含めることも要求します(ただし必須ではありません)。「本製品には JDOM Project (<http://www.jdom.org/>) によって開発されたソフトウェアが含まれています。」

または、<http://www.jdom.org/images/logos> で入手可能なロゴを使用して、この謝辞をロゴで表現することもできます。

本ソフトウェアは「現状のまま」提供されるものであり、販売可能性に関する保証の黙示的保証を含む明示的または黙示的保証、および特定の用途に対する適合性はすべて放棄されます。いかなる場合においても、JDOM の作者またはプロジェクトへの貢献者は、直接的、間接的、付随的、特殊的、例示的、または結果的な損害(代替商品またはサービスの調達、使用不可、データの紛失、または利益の逸失、あるいは事業の中断を含むが、これらに限定されない)に対して、契約行為、厳格責任、不法行為(不注意または別の方法を含む)を含め、責任の理論にかかわらず、たとえかかる損害の発生の可能性を知らされていた場合であっても、一切責任を負いません。

Phaos

本ソフトウェアは、部分的に SSLava™ Toolkit (Copyright ©1996-1998 by Phaos Technology Corporation) から派生しています。All Rights Reserved. 顧客が Phaos ソフトウェアの機能にアクセスすることは禁じられています。

W3C

W3C[®] ソフトウェア表示およびライセンス

本作業物(および付属ソフトウェア、README などのマニュアル、または他の関連する品目)は、次のライセンスに従って著作権保持者によって提供されています。本作業物の使用またはコピー、あるいはその両方を行うことにより、ユーザ(使用者)は、次の条件を読んで理解し、それらに従うことに同意します。

本ソフトウェアと付属ドキュメントをコピー、変更、および配布する許可は、変更の有無にかかわらず、あらゆる目的に対し、無償または使用料が必要な場合でも、変更を含め、ソフトウェアとドキュメントまたはそれらの一部のすべてのコピーに次を含める場合に許可されます。

再配布された作業物または派生作業物のユーザに見える場所に、本表示の全文。

2. 既存の知的財産権の免責事項、通知、または条件すべて。これらがまったく存在しない場合、再配布または派生したコードの本文内に、W3C の Software Short Notice を含める必要があります(ハイパーテキストを推奨、テキストも可)。
3. 変更が行われた日付を含む、ファイルに対する変更または改変内容の表示。コードの派生元の URI を提供することをお勧めします。

本ソフトウェアおよびマニュアルは「現状のまま」提供されるもので、著作権保持者は、販売可能性に関する保証または特定の用途に対する適合性、あるいはソフトウェアまたはマニュアルの使用によって、第三者の特許、著作権、商標などの権利を侵害しないことを含むが、これらに限定されない表示または保証を、明示的または黙示的を問わず、一切行いません。

著作権保持者は、本ソフトウェアまたはドキュメントの使用から生じる直接的、間接的、特殊、または結果的な損害に対して一切責任を負いません。

具体的な書面による事前の許可なしに、著作権保持者の名称および商標を、本ソフトウェアに関する広告または広報に使用することはできません。このソフトウェアおよび関連ドキュメントの著作権に対する権利は、常に著作権保持者に帰します。

目次

本書について	5
目的	5
対象読者	5
前提条件	5
編成	5
1 アクセサリポートレットについて	7
ページのパートI メール用アクセサリポートレット	9
2 Exchange ポートレット	11
2.1 Exchange ポートレットについて	11
2.2 ポートレット初期設定	11
2.3 特記事項	13
2.3.1 Internet Explorer 6	13
2.3.2 基本認証と Microsoft Internet Explorer のセキュリティパッチ	14
3 Groupwise カレンダーポートレット	15
3.1 GroupWise カレンダーポートレットについて	15
3.2 ポートレット初期設定	15
3.3 特記事項	16
3.3.1 ドメイン名の設定	16
3.3.2 Single Sign-On を有効にする	16
3.3.3 GroupWise WebAccess テンプレート	17
4 Groupwise メール / カレンダーポートレット	19
4.1 GroupWise メール / カレンダーポートレットについて	19
4.2 ポートレット初期設定	19
4.3 特記事項	20
4.3.1 ドメイン名の設定	20
4.3.2 Single Sign-On を有効にする	21
4.3.3 GroupWise WebAccess テンプレート	21
5 Groupwise メールポートレット	23
5.1 GroupWise メールポートレットについて	23
5.2 ポートレット初期設定	23
5.3 特記事項	24
5.3.1 ドメイン名の設定	24
5.3.2 Single Sign-On を有効にする	24
5.3.3 GroupWise WebAccess テンプレート	25
6 GroupWise WebAccess ポートレット	27
6.1 GroupWise WebAccess ポートレットについて	27

6.2	ポートレット初期設定	27
6.3	特記事項	28
6.3.1	ドメイン名の設定	28
6.3.2	Single Sign-On を有効にする	29
6.3.3	GroupWise WebAccess テンプレート	29
7	Notes ポートレット	31
7.1	Notes ポートレットについて	31
7.2	ポートレット初期設定	31
7.3	特記事項	32
7.3.1	基本認証と Microsoft Internet Explorer のセキュリティパッチ	32
7.3.2	フォーム認証と Notes Server R6+	33
8	Webmail ポートレット	35
8.1	Webmail ポートレットについて	35
8.2	ポートレット初期設定	35
8.3	特記事項	36
	ページのパート II ファイル用アクセサリポートレット	39
9	NetStorage ポートレット	41
9.1	NetStorage ポートレットについて	41
9.2	ポートレット初期設定	41
9.3	特記事項	42
9.3.1	NetStorage セッションの終了	42
9.3.2	必要なファイル	42
9.3.3	NetStorage ポートレットで SSL を使用	43
10	ネットワークファイルポートレット	45
10.1	ネットワークファイルポートレットについて	45
10.2	ポートレット初期設定	45
10.3	Linux または Windows 上でネットワークファイルポートレットを実行する	47
10.4	Linux または Windows 上でネットワークファイルポートレットを実行して NetWare ボリュームにアクセスする	47
10.5	ネットワークファイルポートレットの使い方のヒント	48
10.5.1	ポートレットを設定して、NetWare 環境のユーザのホームディレクトリにアクセスする	48
10.5.2	ポートレットを設定して、Linux または Windows 環境のユーザのホームディレクトリのファイルにアクセスする	49
10.5.3	Single Sign-On (SSO) でスコープパスを使用	49
10.5.4	CN プロパティを追加する方法	50
	ページのパート III その他のアクセサリポートレット	51
11	ブックマークポートレット	53
11.1	ブックマークポートレットについて	53
11.2	ポートレット初期設定	53

12 NNTP ニュースポートレット	55
12.1 NNTP ニュースポートレット	55
12.2 ポートレット初期設定	55
13 HTML ポートレット	57
13.1 HTML ポートレットについて	57
13.2 ポートレット初期設定	58
13.3 特記事項	60
13.3.1 ウィザードの使用	60
14 HTML Message Editor ポートレット	63
14.1 HTML Message Editor ポートレットについて	63
14.2 ポートレット初期設定	63
14.2.1 メッセージの編集	64
14.2.2 カスタムコントロール	64
15 IFrame ポートレット	65
15.1 iFrame ポートレットについて	65
15.2 ポートレット初期設定	65
15.3 特記事項	67
15.3.1 基本認証と Microsoft Internet Explorer のセキュリティパッチ	67
16 メッセージポートレット	69
16.1 メッセージポートレットについて	69
16.2 ポートレット初期設定	69
17 RSS ニュースフィードポートレット	71
17.1 RSS ニュースフィードポートレット	71
17.2 ポートレット初期設定	71
18 ショートカット起動ポートレット	73
18.1 ショートカット起動ポートレットについて	73
18.2 ポートレット初期設定	73
18.3 特記事項	76
18.3.1 依存関係	76
18.3.2 ショートカットの認証	76
18.3.3 基本認証と Microsoft Internet Explorer のセキュリティパッチ	77

本書について

目的

本書では、Novell Identity Manager で使用できる「アクセサリポートレット」について説明します。

対象読者

本書は、Identity Manager ユーザアプリケーションインタフェースを使用する「管理者」を対象にしています。

前提条件

本書では、ユーザインタフェースの「デフォルト環境設定」を使用していることを前提として説明しています。ユーザインタフェースがカスタマイズされている場合、本書で紹介する例とは、表示や動作が異なることがあります。

本書を読み始める前に、使用している Identity Manager のユーザインタフェースがカスタマイズされているかどうかをシステム管理者に確認してください。

編成

本書では、アクセサリポートレットについて3部構成で説明します。

パート	ポートレット
メール用アクセサリポートレット	Exchange、GroupWise カレンダー、Groupwise メール/カレンダー、Groupwise メール、Groupwise WebAccess、LotusNotes、Webmail
ファイルシステム用アクセサリポートレット	Net Storage、ネットワークファイル
その他のアクセサリポートレット	ブックマーク、NNTP ニュース、HTML、HTML Message Editor、iFrame、メッセージ、RSS ニュース、ショートカット

アクセサリポートレットについて

1

Novell Identity Manager には、製品のポートレットの機能を補足する一連のアクセサリポートレットが付属しています。アクセサリポートレットは、ユーザインタフェースページのコンテンツを提供するプラグイン可能なユーザインタフェース要素です。

次のアクセサリポートレットがあります。

- ◆ Exchange
- ◆ GroupWise カレンダー
- ◆ GroupWise メール / カレンダー
- ◆ GroupWise メール
- ◆ GroupWise WebAccess
- ◆ Notes
- ◆ Webmail
- ◆ Net Storage
- ◆ ネットワークファイル
- ◆ ブックマーク
- ◆ NNTP ニュース
- ◆ HTML
- ◆ HTML Message Editor
- ◆ iFrame
- ◆ メッセージ
- ◆ RSS ニュース
- ◆ ショートカット起動

本書では、アクセサリポートレットのリファレンス情報を提供します。ポートレットとその管理方法の詳細については、『Identity Manager ユーザアプリケーション管理ガイド』を参照してください。

メール用アクセサリポートレット

これらの章では、メール関連のアクセサリポートレットについて説明します。

- ◆ 11 ページの第 2 章「Exchange ポートレット」
- ◆ 15 ページの第 3 章「Groupwise カレンダポートレット」
- ◆ 19 ページの第 4 章「Groupwise メール / カレンダポートレット」
- ◆ 23 ページの第 5 章「Groupwise メールポートレット」
- ◆ 27 ページの第 6 章「GroupWise WebAccess ポートレット」
- ◆ 31 ページの第 7 章「Notes ポートレット」
- ◆ 35 ページの第 8 章「Webmail ポートレット」

Exchange ポートレット

2

この章では、Exchange ポートレットの使用方法について説明します。

2.1 Exchange ポートレットについて

Exchange ポートレットを使用すると、ユーザのポータルから Microsoft Exchange のカレンダー機能とメッセージング機能にアクセスできます。

ポートレット初期設定では、ポートレットのサイズや外観、ユーザのメールボックス、ログイン情報を設定できます。

2.2 ポートレット初期設定

Exchange ポートレットの各設定項目は、次のように設定できます。

設定	説明
非表示	[非表示] をオンにすると、この設定はランタイム時に非表示になります。
必須	[必須] をオンにすると、この設定はランタイム時に必須になります。
読み込み専用	[読み込み専用] をオンにすると、この設定はランタイム時に変更できなくなります。

次の Exchange 初期設定に値を設定できます。

設定項目	指定内容
Exchange Web Access ログオンフォームの URL	Exchange Web Access ログオンフォームの URL。ユーザはこのフォームを使って Exchange にログインできます。URL は Exchange 管理者に問い合わせてください。次のような形式を使用することがあります。http://exchange.company.com/exchange/logonfrm.asp
URL/ フォームパラメータ	Exchange Web Access ログオンフォームの URL のパラメータを指定します。形式は NAME=VALUE です。たとえば、mode=edit のように指定します。 [Form Post の選択?] が [True] に設定されている場合、これらのパラメータは非表示フォームフィールドとして宛先の URL に送信されます。[True] に設定されていない場合は、URL パラメータとして渡されます。ポートレット認証資格情報は、次の代替文字列を使って「ポスト」に渡すことができます ([Form Post の選択?] を [True] に設定)。 \$PORTLET_AUTH_ID\$ と \$PORTLET_AUTH_PWD\$
URL パラメータのエンコード	指定の URL パラメータのエンコードが可能な場合に、エンコードするかどうかを選択します。エンコードの設定は、[エンコード] 初期設定で行います。

設定項目	指定内容
エンコード	<p>URL エンコードが適切な場合に、どのエンコーディングスキームを使用するかを定義します。デフォルトでは、何も設定されません。ポートレットはポータル (JBoss アプリケーションサーバなど) からエンコーディングスキームを継承します。</p> <p>Exchange ポートレットで Exchange Web アプリケーションのアクセス中に問題が発生した場合には、エンコードを変更します。この問題は、文字セットのエンコードが誤っている場合によく発生します。実際、ターゲットの Exchange Web アプリケーションの文字エンコーディングスキームと、JBoss アプリケーションサーバをホストしているポータルのエンコーディングスキームがまったく異なる場合があります。たとえば、インストールされている Identity Manager バージョン 3 で Latin 文字セット (ISO 8859-1) または汎用 UTF-8 文字セットが使用されている場合に、Exchange Web アプリケーションでは日本語文字セットが使用されている場合があります。</p> <p>[エンコード] に値を設定する前に、ターゲットの Exchange Web アプリケーションに適した文字セットを確認してください。有効な値のリストは、http://www.iana.org/assignments/character-sets (http://www.iana.org/assignments/character-sets) を参照してください。これらの値では、大文字と小文字が区別されます。たとえばエンコーディングスキームを強制的に UTF-8 に変更したい場合、utf-8 ではなく UTF-8 と入力する必要があります。</p>
Form Post の選択 ?	<p>ポートレットが URL に対して POST と GET のどちらを実行するかを指定します。</p> <p>[Form Post の選択 ?] が [True] に設定されている場合、フォームの非表示入力フィールドから指定の URL にパラメータがポストされます。たとえば、[Form Post の選択 ?] が [True] に設定されていて、Exchange サーバがフォームベース認証を実装している場合、次の Form Post パラメータ で認証を利用できます。username=mydomain\myusername, password=mypassword。</p> <p>[Form Post の選択 ?] と [認証を要求] の両方が [True] に設定されている場合、[ユーザ名] フィールドと [パスワード] フィールドの値は必須になります。これらの値は、代替文字列を指定し、フォームベース認証で使用することができます。たとえば、username=\$PORTLET_AUTH_ID\$ と password=\$PORTLET_AUTH_PWD\$ を指定することにより、フォームパラメータ username=usernamefieldvalue と password=passwordfieldvalue をポストすることができます。代替文字列を使用すると、パスワードを保存する必要がなくなります。</p>
認証を要求	<p>[True] または [False] を選択します。重要な情報については、14 ページのセクション 2.3.2 「基本認証と Microsoft Internet Explorer のセキュリティパッチ」 を参照してください。</p>
ユーザ名	<p>Exchange サーバにアクセスするときに使用するユーザ名を指定します。</p>
パスワード	<p>Exchange サーバにアクセスするときに使用するパスワードを指定します。</p>

設定項目	指定内容
Exchange ポートレットの高さ (ピクセル単位)	インラインフレームの高さをピクセル単位で指定します。たとえば、 640x480 で表示する場合の高さは 480 です。
Exchange ポートレットの幅 (ピクセル単位)	インラインフレームの幅をピクセル単位またはパーセンテージで指定します。たとえば、 640x480 で表示する場合の幅は 640 です。パーセンテージで指定する場合は、「 100% 」のように数値の後ろにパーセント記号を付けます。
余白の高さ (ピクセル単位)	フレームのコンテンツの上下余白のスペースを指定します。
余白の幅 (ピクセル単位)	フレームのコンテンツの左右余白のスペースを指定します。
境界線	Exchange コントロールの周囲に境界線を表示するかどうかを選択します。
スクロールバー	Exchange コントロール内でのコンテンツのスクロールを有効にします。
Iframe テキストリンクではありません	iFrame HTML タグは、別のドキュメントを含むインラインフレームを作成します。ブラウザによっては、 iFrame タグをサポートしていないものもあります。 iFrame 未対応ブラウザで、 URL 初期設定のハイパーテキストリンクとして表示されるメッセージを入力します。
Exchange メールボックス	特定のメールボックス値を入力します。この値を空白にすると、共有 /パブリックフォルダへのアクセスが許可されます。

2.3 特記事項

この項では、Exchange ポートレットを使用する上での特記事項について説明します。

2.3.1 Internet Explorer 6

IE6 を使用していて、Exchange ポートレットが Single Sign-on を受け入れない場合は、次のようにブラウザでサードパーティの Cookie を有効にします。

- 1 IIE6IE6 で、[ツール] > [インターネットオプション] の順に選択します。
- 2 [プライバシー] タブを選択し、[詳細設定] ボタンをクリックします。
- 3 [自動 Cookie 処理を上書きする] チェックボックスをオンにします。
- 4 [ファーストパーティの Cookie] は [受け入れる] のままにします。
- 5 [サードパーティの Cookie] を [受け入れる] に変更します。
- 6 [常にセッション Cookie を許可する] チェックボックスをオンにします。
- 7 [OK] を 2 回クリックします。

詳細については、次の Novell® のサポートページを参照してください。

<http://support.novell.com/cgi-bin/search/searchtid.cgi?/10069074.htm> (<http://support.novell.com/cgi-bin/search/searchtid.cgi?/10069074.htm>)

2.3.2 基本認証と Microsoft Internet Explorer のセキュリティパッチ

Microsoft のセキュリティパッチ MS04-004 累積的なセキュリティ更新プログラムは、`http://username:password@server` という形式の URL を禁止することによって基本認証を無効にします。このパッチのアンインストールの方法については、<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;en-us;834489> (<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;en-us;834489>) を参照してください。宛先サーバでフォームベース認証 (Exchange *post* と *auth* を [True] に設定) を有効にできる場合は、この方法がより安全な方法です。

Groupwise カレンダーポータルレット

3

この章では、GroupWise カレンダーポータルレットについて説明します。

3.1 GroupWise カレンダーポータルレットについて

GroupWise カレンダーポータルレットを使用すると、ユーザのポータルから GroupWise® カレンダー機能にアクセスできます。このポータルレットは、GroupWise WebAccess サーバに要求を送信し、応答を受信して、カレンダー、タスクリスト、メモリスト、通知リスト、および GroupWise WebAccess サーバへの HTML リンクを表示します。GroupWise カレンダー機能では、パススルーログインを使用できます。

3.2 ポータルレット初期設定

Groupwise カレンダーポータルレットの各設定項目は、次のように設定できます。

設定	説明
非表示	[非表示] をオンにすると、この設定はランタイム時に非表示になります。
必須	[必須] をオンにすると、この設定はランタイム時に必須になります。
読み込み専用	[読み込み専用] をオンにすると、この設定はランタイム時に変更できなくなります。

次の GroupWise カレンダーの初期設定に値を設定できます。

設定項目	指定内容
GroupWise Web アクセスサーバ	GroupWise WebAccess サーバの URL。ポータルと GroupWise サーバが同じ DNS ドメインに属している必要があります。GroupWise WebAccess サーバの HTTP アドレスを設定する場合は、次のように完全 DNS ホスト名を指定します。 <code>http://GWWebaccess.novell.com</code>
GroupWise Web アクセスパス	GroupWise WebAccess サーバの設定に追加するパス。次に例を示します。 GroupWise 6.5.x: <code>/servlet/webacc</code> GroupWise 7.0: <code>/gw/webacc</code>
ユーザ名	Single Sign-on を有効にする管理者は、GroupWise ポータルレットの [ユーザ名] オプションに次のいずれかの値を指定できます。 <code>\${User/simpleid}</code> <code>\${Application/login-user}</code>

設定項目	指定内容
パスワード	Single Sign-on を有効にする管理者は、[パスワード] オプションに次の値を指定できます。 \${Application/login-pass}
月ごとのカレンダーを表示する	月ごとのカレンダーを表示する場合は、[True] を選択します。
アポイントを表示？	アポイントを表示する場合は、[True] を選択します。
タスクを表示？	タスクを表示する場合は、[True] を選択します。
メモを表示？	メモを表示する場合は、[True] を選択します。
GroupWise Web アクセスリンクを表示しますか？	WebAccess へのリンクを表示する場合は、[True] を選択します。

3.3 特記事項

この項では、GroupWise ポートレットを使用する上での特記事項について説明します。

3.3.1 ドメイン名の設定

GroupWise 6.5 以上を使用している場合は、ポータルと GroupWise サーバが同じ DNS ドメインに属している必要があります。GroupWise WebAccess サーバの HTTP アドレスを設定する場合は、次のように完全 DNS ホスト名を指定します。http://GWWebaccess.novell.com

ローカル環境でポートレットを使用している場合は、ローカルドメイン名を次のように設定して、エラーメッセージが表示されないようにすることができます。

- 1 ローカルファイルシステム内で、TCP/IP サブシステムの HOSTS ファイルを検索します。Linux、Netware、Windows の HOSTS ファイルは、通常、次の場所にあります。
//etc/hosts (for Linux)
SYS:ETC\HOSTS (for Netware)
rootdrive:\WINNT\system32\drivers\etc\hosts (for Windows)
rootdrive:\WINDOWS\system32\drivers\etc\hosts (for Windows)
- 2 HOSTS ファイルに、使用するローカルホストのエントリを追加します。GroupWise サーバと同じドメインのホストを指定してください。127.0.0.1 localhost のエントリをコピーして、localhost の部分を *hostname.yourdomain* に変更します。
たとえば novell.com の場合、次のようなエントリになります。
127.0.0.1 localhost 127.0.0.1 hostname.novell.com

3.3.2 Single Sign-On を有効にする

ユーザがこのポートレットに簡単にアクセスできるようにするには、自動的にユーザを認証する Single Sign-on 機能を使用します。次のようにします。

- ◆ [ユーザ名] オプションに \${User/simpleid} または \${Application/login-user} を指定する
- ◆ [パスワード] オプションに \${Application/login-pass} を指定する

その後、Single Sign-on を有効にします。

ログインポートレットで SSO を有効にする

- 1 ユーザアプリケーションの管理者としてポータルにログインします。
- 2 [管理] タブを選択します。
- 3 [ポートレット管理] タブを選択します。
- 4 [ポートレットアプリケーション] を展開します。
- 5 [IDM] を展開します。
- 6 [IDMLoginPortlet] を展開します。
- 7 次のレベルの [IDMLoginPortlet] をクリックします。
- 8 [初期設定] タブを選択します。
- 9 [SSO を有効にする] を [True] に設定します。
- 10 [設定の保存] をクリックします。

3.3.3 GroupWise WebAccess テンプレート

GroupWise ポートレットにメールやカレンダーメッセージが正しく表示されるようにするには、GroupWise WebAccess サーバに追加の GroupWise テンプレートをインストールする必要があります。

GroupWise WebAccess テンプレートをインストールする

- 1 GroupWise サーバに GroupWise 6 以上と WebAccess がインストールされていることを確認します。
- 2 インストールディレクトリにある GroupWise ポートレットの *templates.zip* ファイルをコピーして、GroupWise WebAccess サーバのテンプレートディレクトリに貼り付けます。

通常、インストールディレクトリは `.../novell/idm` です。

テンプレートディレクトリは次のいずれかのディレクトリになります。

Web サーバのタイプ	templates.zip のテンプレートディレクトリ
-------------	-----------------------------

OES/Linux WebAccess サーバ	Open Enterprise Server と GroupWise 7 を使用している場合： /var/opt/novell/gw/web-inf/classes/com/ novell/webaccess/templates/css
-------------------------	--

重要 : GroupWise 7 では、テンプレートディレクトリが `.../templates/css` ディレクトリに変更されています。

Web サーバのタイプ	templates.zip のテンプレートディレクトリ
NetWare WebAccess サーバ	<p>NetWare 6.5 と GroupWise 6.5 を使用している場合：</p> <pre>sys:\tomcat\4\webapps\ROOT\WEB-INF\classes\com\novell\webaccess\templates\frames</pre> <p>NetWare 6 と GroupWise 7.x を使用している場合は、GroupWise サーバの次のディレクトリに GroupWise ポートレットの templates.zip をコピーします。</p> <pre>sys:\tomcat\33\webapps\root\web-inf\classes\com\novell\webaccess\templates\css</pre>
Windows WebAccess サーバ	<p>Internet Information Server (IIS) サーバで GroupWise 6.5 を実行している場合：</p> <pre>c:\novell\java\servlets\com\novell\webaccess\templates\frames</pre>

- GroupWise WebAccess サーバ上の次の場所に templates.zip を圧縮解除します。

```
.../web-inf/classes/com/novell/webaccess/templates/css
```
- Webacc.cfg* で WebAccess のセキュリティ設定を変更します。すると、再度ログインしなくても WebAccess にメッセージが表示されるようになります。NetWare 上で、*sys:novell\webaccess\webacc.cfg* ファイルを変更します。*Security.UseClientIP.enable* を *False* に設定します。
webacc.cfg ファイルは、次の場所にあります。

OES/Linux Web サーバ	<p>Open Enterprise Server と GroupWise 7 を使用している場合：GroupWise サーバの <i>/opt/novell/groupwise/webaccess/directory</i></p>
NetWare Web サーバ	<p>NetWare 6.5 と GroupWise 6.5 を使用している場合： sys:novellwebaccess</p>

- WebAccess をホストしている Tomcat インスタンスを停止し、再起動します。

Groupwise メール / カレンダーポートレット

この章では、GroupWise メール / カレンダーポートレットについて説明します。

4.1 GroupWise メール / カレンダーポートレットについて

GroupWise メール / カレンダーポートレットを使用すると、Web ブラウザから GroupWise メールボックスやカレンダーにアクセスできます。

4.2 ポートレット初期設定

Groupwise メールカレンダーポートレットの各設定項目は、次のように設定できます。

設定	説明
非表示	[非表示] をオンにすると、この設定はランタイム時に非表示になります。
必須	[必須] をオンにすると、この設定はランタイム時に必須になります。
読み込み専用	[読み込み専用] をオンにすると、この設定はランタイム時に変更できなくなります。

次の GroupWise メールとカレンダーの初期設定に値を設定できます。

設定項目	指定内容
GroupWise Web アクセスサーバ	GroupWise WebAccess サーバの URL。ポータルと GroupWise サーバが同じ DNS ドメインに属している必要があります。 GroupWise WebAccess サーバの HTTP アドレスを設定する場合は、次のように完全 DNS ホスト名を指定します。 http://GWWebaccess.novell.com
GroupWise Web アクセスパス	GroupWise WebAccess サーバの設定に追加するパス。次に例を示します。 GroupWise 6.5.x: /servlet/webacc GroupWise 7.0: /gw/webacc
ユーザ名	Single Sign-on を有効にする管理者は、GroupWise ポートレットの [ユーザ名] オプションに次のいずれかの値を指定できます。 \${User/simpleid} \${Application/login-user}

設定項目	指定内容
パスワード	Single Sign-on を有効にする管理者は、[パスワード] オプションに次の値を指定できます。 \${Application/login-pass}
Groupwise メール表示カウント:	表示するメールの数を設定します。
パスワードキャッシング	小文字または大文字で指定します。
月ごとのカレンダーを表示する	月ごとのカレンダーを表示する場合は、[True] をクリックします。
カレンダーに予定を表示しますか?	カレンダーにアポイントを表示する場合は、[True] をクリックします。
カレンダーに仕事を表示しますか?	カレンダーに仕事を表示する場合は、[True] をクリックします。
カレンダーにメモを表示しますか?	カレンダーにメモを表示する場合は、[True] をクリックします。
GroupWise カレンダー Web アクセスリンクを表示しますか?	WebAccess へのリンクを表示する場合は、[True] をクリックします。
非アクティブなタブカラー:	有効な HTML カラーがわかる場合は入力します。わからない場合はデフォルトのままにします。
ハイライトタブカラー:	有効な HTML カラーがわかる場合は入力します。わからない場合はデフォルトのままにします。
変更しないでください -- これはシステム生成値です!	システム生成値は変更しないでください。

4.3 特記事項

この項では、GroupWise ポートレットを使用する上での特記事項について説明します。

4.3.1 ドメイン名の設定

GroupWise 6.5 以上を使用している場合は、ポータルと GroupWise サーバが同じ DNS ドメインに属している必要があります。GroupWise WebAccess サーバの HTTP アドレスを設定する場合は、次のように完全 DNS ホスト名を指定します。http://GWWebaccess.novell.com

ローカル環境でポートレットを使用している場合は、ローカルドメイン名を次のように設定して、エラーメッセージが表示されないようにすることができます。

- ローカルファイルシステム内で、TCP/IP サブシステムの HOSTS ファイルを検索します。Linux、Netware、Windows の HOSTS ファイルは、通常、次の場所にあります。
//etc/hosts (for Linux)
SYS:ETC\HOSTS (for Netware)
rootdrive:\WINNT\system32\drivers\etc\hosts (for Windows)
rootdrive:\WINDOWS\system32\drivers\etc\hosts (for Windows)
- HOSTS ファイルに、使用するローカルホストのエントリを追加します。GroupWise サーバと同じドメインのホストを指定してください。127.0.0.1 localhost のエントリをコピーして、localhost の部分を hostname.yourdomain に変更します。
たとえば novell.com の場合、次のようなエントリになります。
127.0.0.1 localhost 127.0.0.1 hostname.novell.com

4.3.2 Single Sign-On を有効にする

ユーザがこのポートレットに簡単にアクセスできるようにするには、自動的にユーザを認証する Single Sign-on 機能を使用します。次のようにします。

- ◆ [ユーザ名] オプションに `${User/simpleid}` または `${Application/login-user}` を指定する
- ◆ [パスワード] オプションに `${Application/login-pass}` を指定する

その後、Single Sign-on を有効にします。

ログインポートレットで SSO を有効にする

- 1 ユーザアプリケーションの管理者としてポータルにログインします。
- 2 [管理] タブを選択します。
- 3 [ポートレット管理] タブを選択します。
- 4 [ポートレットアプリケーション] を展開します。
- 5 [IDM] を展開します。
- 6 [IDMLoginPortlet] を展開します。
- 7 次のレベルの [IDMLoginPortlet] をクリックします。
- 8 [初期設定] タブを選択します。
- 9 [SSO を有効にする] を [True] に設定します。
- 10 [設定の保存] をクリックします。

4.3.3 GroupWise WebAccess テンプレート

GroupWise ポートレットにメールやカレンダーメッセージが正しく表示されるようにするには、GroupWise WebAccess サーバに追加の GroupWise テンプレートをインストールする必要があります。

GroupWise WebAccess テンプレートをインストールする

- 1 GroupWise サーバに GroupWise 6 以上と WebAccess がインストールされていることを確認します。
- 2 インストールディレクトリにある GroupWise ポートレットの *templates.zip* ファイルをコピーして、GroupWise WebAccess サーバのテンプレートディレクトリに貼り付けます。

通常、インストールディレクトリは `.../novell/idm` です。

テンプレートディレクトリは次のいずれかのディレクトリになります。

Web サーバのタイプ	templates.zip のテンプレートディレクトリ
OES/Linux WebAccess サーバ	<p>Open Enterprise Server と GroupWise 7 を使用している場合： <code>/var/opt/novell/gw/web-inf/classes/com/novell/webaccess/templates/css</code></p> <hr/> <p>重要： GroupWise 7 では、テンプレートディレクトリが <code>.../templates/css</code> ディレクトリに変更されています。</p>
NetWare WebAccess サーバ	<p>NetWare 6.5 と GroupWise 6.5 を使用している場合： <code>sys:\tomcat\4\webapps\ROOT\WEB-INF\classes\com\novell\webaccess\templates\frames</code></p> <p>NetWare 6 と GroupWise 7.x を使用している場合は、GroupWise サーバの次のディレクトリに GroupWise ポートの <code>templates.zip</code> をコピーします。 <code>sys:\tomcat\33\webapps\root\web-inf\classes\com\novell\webaccess\templates\css</code></p>
Windows WebAccess サーバ	<p>Internet Information Server (IIS) サーバで GroupWise 6.5 を実行している場合： <code>c:\novell\java\servlets\com\novell\webaccess\templates\frames</code></p>

- GroupWise WebAccess サーバ上の次の場所に `templates.zip` を圧縮解除します。
`.../web-inf/classes/com/novell/webaccess/templates/css`
- `Webacc.cfg` で WebAccess のセキュリティ設定を変更します。すると、再度ログインしなくても WebAccess にメッセージが表示されるようになります。NetWare 上で、`sys:novell\webaccess\webacc.cfg` ファイルを変更します。`Security.UseClientIP.enable` を `False` に設定します。
`webacc.cfg` ファイルは、次の場所にあります。

OES/Linux Web サーバ	Open Enterprise Server と GroupWise 7 を使用している場合： <code>GroupWise サーバの /opt/novell/groupwise/webaccess/directory</code>
NetWare Web サーバ	NetWare 6.5 と GroupWise 6.5 を使用している場合： <code>sys:novellwebaccess</code>

- WebAccess をホストしている Tomcat インスタンスを停止し、再起動します。

Groupwise メールポータルレット

5

この章では、GroupWise メールポータルレットについて説明します。

5.1 GroupWise メールポータルレットについて

GroupWise メールポータルレットを使用すると、Web ブラウザから GroupWise メールボックスにアクセスすることができます。

5.2 ポータルレット初期設定

Groupwise メールポータルレットの各設定項目は、次のように設定できます。

設定	説明
非表示	[非表示] をオンにすると、この設定はランタイム時に非表示になります。
必須	[必須] をオンにすると、この設定はランタイム時に必須になります。
読み込み専用	[読み込み専用] をオンにすると、この設定はランタイム時に変更できなくなります。

次の GroupWise メールポータルレットの初期設定に値を設定できます。

設定項目	指定内容
GroupWise Web アクセスサーバ	GroupWise WebAccess サーバの URL。ポータルと GroupWise サーバが同じ DNS ドメインに属している必要があります。 GroupWise WebAccess サーバの HTTP アドレスを設定する場合は、次のように完全 DNS ホスト名を指定します。 <code>http://GWWebaccess.novell.com</code>
GroupWise Web アクセスパス	GroupWise WebAccess サーバの設定に追加するパス。次に例を示します。 GroupWise 6.5.x: <code>/servlet/webacc</code> GroupWise 7.0: <code>/gw/webacc</code>
ユーザ名	Single Sign-on を有効にする管理者は、GroupWise ポータルレットの [ユーザ名] オプションに次のいずれかの値を指定できます。 <code>\${User/simpleid}</code> <code>\${Application/login-user}</code>
パスワード	Single Sign-on を有効にする管理者は、[パスワード] オプションに次の値を指定できます。 <code>\${Application/login-pass}</code>
Groupwise メール表示カウント	表示するメールの数を設定します。

設定項目	指定内容
パスワードキャッシング	大文字または小文字で指定します。

5.3 特記事項

この項では、GroupWise ポートレットを使用する上での特記事項について説明します。

5.3.1 ドメイン名の設定

GroupWise 6.5 以上を使用している場合は、ポータルと GroupWise サーバが同じ DNS ドメインに属している必要があります。GroupWise WebAccess サーバの HTTP アドレスを設定する場合は、次のように完全 DNS ホスト名を指定します。http://GWWebaccess.novell.com

ローカル環境でポートレットを使用している場合は、ローカルドメイン名を次のように設定して、エラーメッセージが表示されないようにすることができます。

- ローカルファイルシステム内で、TCP/IP サブシステムの HOSTS ファイルを検索します。Linux、Netware、Windows の HOSTS ファイルは、通常、次の場所にあります。

```
//etc/hosts (for Linux)
SYS:ETC\HOSTS (for Netware)
rootdrive:\WINNT\system32\drivers\etc\hosts (for Windows)
rootdrive:\WINDOWS\system32\drivers\etc\hosts (for Windows)
```
- HOSTS ファイルに、使用するローカルホストのエントリを追加します。GroupWise サーバと同じドメインのホストを指定してください。127.0.0.1 localhost のエントリをコピーして、localhost の部分を *hostname.yourdomain* に変更します。
たとえば novell.com の場合、次のようなエントリになります。

```
127.0.0.1 localhost 127.0.0.1 hostname.novell.com
```

5.3.2 Single Sign-On を有効にする

ユーザがこのポートレットに簡単にアクセスできるようにするには、自動的にユーザを認証する Single Sign-on 機能を使用します。次のようにします。

- [ユーザ名] オプションに `${User/simpleid}` または `${Application/login-user}` を指定する
- [パスワード] オプションに `${Application/login-pass}` を指定する

その後、Single Sign-on を有効にします。

ログインポートレットで SSO を有効にする

- ユーザアプリケーションの管理者としてポータルにログインします。
- [管理] タブを選択します。
- [ポートレット管理] タブを選択します。
- [ポートレットアプリケーション] を展開します。
- [IDM] を展開します。
- [IDMLoginPortlet] を展開します。
- 次のレベルの [IDMLoginPortlet] をクリックします。

- 8 [初期設定] タブを選択します。
- 9 [SSO を有効にする] を [True] に設定します。
- 10 [設定の保存] をクリックします。

5.3.3 GroupWise WebAccess テンプレート

GroupWise ポートレットにメールやカレンダーメッセージが正しく表示されるようにするには、GroupWise WebAccess サーバに追加の GroupWise テンプレートをインストールする必要があります。

GroupWise WebAccess テンプレートをインストールする

- 1 GroupWise サーバに GroupWise 6 以上と WebAccess がインストールされていることを確認します。
- 2 インストールディレクトリにある GroupWise ポートレットの *templates.zip* ファイルをコピーして、GroupWise WebAccess サーバのテンプレートディレクトリに貼り付けます。

通常、インストールディレクトリは `.../novell/idm` です。

テンプレートディレクトリは次のいずれかのディレクトリになります。

Web サーバのタイプ	templates.zip のテンプレートディレクトリ
OES/Linux WebAccess サーバ	<p>Open Enterprise Server と GroupWise 7 を使用している場合： <code>/var/opt/novell/gw/web-inf/classes/com/novell/webaccess/templates/css</code></p> <hr/> <p>重要： GroupWise 7 では、テンプレートディレクトリが <code>.../templates/css</code> ディレクトリに変更されています。</p>
NetWare WebAccess サーバ	<p>NetWare 6.5 と GroupWise 6.5 を使用している場合： <code>sys:\tomcat\4\webapps\ROOT\WEB-INF\classes\com\novell\webaccess\templates\frames</code></p> <p>NetWare 6 と GroupWise 7.x を使用している場合は、GroupWise サーバの次のディレクトリに GroupWise ポートレットの <i>templates.zip</i> をコピーします。 <code>sys:\tomcat\33\webapps\root\web-inf\classes\com\novell\webaccess\templates\css</code></p>
Windows WebAccess サーバ	<p>Internet Information Server (IIS) サーバで GroupWise 6.5 を実行している場合： <code>c:\novell\java\servlets\com\novell\webaccess\templates\frames</code></p>

- 3 GroupWise WebAccess サーバ上の次の場所に *templates.zip* を圧縮解除します。
`.../web-inf/classes/com/novell/webaccess/templates/css`
- 4 *Webacc.cfg* で WebAccess のセキュリティ設定を変更します。すると、再度ログインしなくても WebAccess にメッセージが表示されるようになります。NetWare 上で、

`sys:novell\webaccess\webacc.cfg` ファイルを変更します。`Security.UseClientIP.enable` を `False` に設定します。

`webacc.cfg` ファイルは、次の場所にあります。

OES/Linux Web サーバ	Open Enterprise Server と GroupWise 7 を使用している場合： GroupWise サーバの <code>/opt/novell/groupwise/webaccess/directory</code>
NetWare Web サーバ	NetWare 6.5 と GroupWise 6.5 を使用している場合： <code>sys:novell\webaccess</code>

- 5 WebAccess をホストしている Tomcat インスタンスを停止し、再起動します。

GroupWise WebAccess ポートレット

6

この章では、GroupWise WebAccess ポートレットについて説明します。

6.1 GroupWise WebAccess ポートレットについて

GroupWise WebAccess ポートレットを使用すると、Web ブラウザから GroupWise にアクセスできます。このポートレットには、次の機能があります。

- ◆ GroupWise WebAccess 製品に認証される。
- ◆ WebAccess が iFrame を使用して表示できるように、GroupWise で WebAccess セッションを保持する。

6.2 ポートレット初期設定

Groupwise WebAccess ポートレットの各設定項目は、次のように設定できます。

設定	説明
非表示	[非表示] をオンにすると、この設定はランタイム時に非表示になります。
必須	[必須] をオンにすると、この設定はランタイム時に必須になります。
読み込み専用	[読み込み専用] をオンにすると、この設定はランタイム時に変更できなくなります。

次の GroupWise WebAccess の初期設定に値を設定できます。

設定項目	指定内容
Groupwise WebAccess への完全修飾 URL	GroupWise WebAccess サーバの完全修飾 URL。ポータルと GroupWise サーバが同じ DNS ドメインに属している必要があります。GroupWise WebAccess サーバの HTTP アドレスを設定する場合は、次のように完全 DNS ホスト名を指定します。 GroupWise 6.5.x: <code>http://GWWebaccess.novell.com/servlet/webacc.</code> GroupWise 7.0: <code>http://GWWebaccess.novell.com/gw/webacc</code>
高さ (ピクセル単位)	インラインフレームの高さをピクセル単位で指定します。たとえば、640x480 のフレームの高さは 480 です。
幅 (ピクセル単位)	インラインフレームの幅をピクセル単位またはパーセンテージで指定します。たとえば、640x480 のフレームの幅は 640 です。パーセンテージで指定する場合は、「100%」のように数値の後ろにパーセント記号を付けます。

設定項目	指定内容
余白の高さ (ピクセル単位)	フレームのコンテンツの上下余白のスペースを指定します。
余白の幅 (ピクセル単位)	フレームのコンテンツの左右余白のスペースを指定します。
境界線	Web Access ビューの周囲に境界線を表示します。
スクロールバー	Web Access ビュー内でのコンテンツのスクロールを有効にします。
ユーザ名	<p>Single Sign-on を有効にする管理者は、GroupWise ポートレットの [ユーザ名] オプションに次のいずれかの値を指定できます。</p> <p><code>\${User/simpleid}</code> <code>\${Application/login-user}</code></p>
パスワード	<p>Single Sign-on を有効にする管理者は、[パスワード] オプションに次の値を指定できます。</p> <p><code>\${Application/login-pass}</code></p>
iframe サポートメッセージなし	ブラウザによっては、 iFrame タグをサポートしていないものもあります。このメッセージ ID は、 iFrame コントロールをサポートしないブラウザで表示されます。 HTML マークアップ言語を含めることができます。

6.3 特記事項

この項では、GroupWise ポートレットを使用する上での特記事項について説明します。

6.3.1 ドメイン名の設定

GroupWise 6.5 以上を使用している場合は、ポータルと GroupWise サーバが同じ DNS ドメインに属している必要があります。GroupWise WebAccess サーバの HTTP アドレスを設定する場合は、次のように完全 DNS ホスト名を指定します。http://GWWebaccess.novell.com

ローカル環境でポートレットを使用している場合は、ローカルドメイン名を次のように設定して、エラーメッセージが表示されないようにすることができます。

- ローカルファイルシステム内で、TCP/IP サブシステムの **HOSTS** ファイルを検索します。Linux、Netware、Windows の **HOSTS** ファイルは、通常、次の場所にあります。
`//etc/hosts` (for Linux)
`SYS:ETC\HOSTS` (for Netware)
`rootdrive:\WINNT\system32\drivers\etc\hosts` (for Windows)
`rootdrive:\WINDOWS\system32\drivers\etc\hosts` (for Windows)
- HOSTS** ファイルに、使用するローカルホストのエントリを追加します。GroupWise サーバと同じドメインのホストを指定してください。127.0.0.1 localhost のエントリをコピーして、localhost の部分を `hostname.yourdomain` に変更します。
たとえば novell.com の場合、次のようなエントリになります。
127.0.0.1 localhost 127.0.0.1 hostname.novell.com

6.3.2 Single Sign-On を有効にする

ユーザがこのポートレットに簡単にアクセスできるようにするには、自動的にユーザを認証する Single Sign-on 機能を使用します。次のようにします。

- ◆ [ユーザ名] オプションに `${User/simpleid}` または `${Application/login-user}` を指定する
- ◆ [パスワード] オプションに `${Application/login-pass}` を指定する

その後、Single Sign-on を有効にします。

ログインポートレットで SSO を有効にする

- 1 ユーザアプリケーションの管理者としてポータルにログインします。
- 2 [管理] タブを選択します。
- 3 [ポートレット管理] タブを選択します。
- 4 [ポートレットアプリケーション] を展開します。
- 5 [IDM] を展開します。
- 6 [IDMLoginPortlet] を展開します。
- 7 次のレベルの [IDMLoginPortlet] をクリックします。
- 8 [初期設定] タブを選択します。
- 9 [SSO を有効にする] を [True] に設定します。
- 10 [設定の保存] をクリックします。

6.3.3 GroupWise WebAccess テンプレート

GroupWise ポートレットにメールやカレンダーメッセージが正しく表示されるようにするには、GroupWise WebAccess サーバに追加の GroupWise テンプレートをインストールする必要があります。

GroupWise WebAccess テンプレートをインストールする

- 1 GroupWise サーバに GroupWise 6 以上と WebAccess がインストールされていることを確認します。
- 2 インストールディレクトリにある GroupWise ポートレットの *templates.zip* ファイルをコピーして、GroupWise WebAccess サーバのテンプレートディレクトリに貼り付けます。
通常、インストールディレクトリは `.../novell/idm` です。
テンプレートディレクトリは次のいずれかのディレクトリになります。

Web サーバのタイプ	templates.zip のテンプレートディレクトリ
OES/Linux WebAccess サーバ	<p>Open Enterprise Server と GroupWise 7 を使用している場合 :</p> <pre>/var/opt/novell/gw/web-inf/classes/com/novell/webaccess/templates/css</pre> <hr/> <p>重要 : GroupWise 7 では、テンプレートディレクトリが <code>.../templates/css</code> ディレクトリに変更されています。</p>
NetWare WebAccess サーバ	<p>NetWare 6.5 と GroupWise 6.5 を使用している場合 :</p> <pre>sys:\tomcat\4\webapps\ROOT\WEB-INF\classes\com\novell\webaccess\templates\frames</pre> <p>NetWare 6 と GroupWise 7.x を使用している場合は、GroupWise サーバの次のディレクトリに GroupWise ポートレットの <code>templates.zip</code> をコピーします。</p> <pre>sys:\tomcat\33\webapps\root\web-inf\classes\com\novell\webaccess\templates\css</pre>
Windows WebAccess サーバ	<p>Internet Information Server (IIS) サーバで GroupWise 6.5 を実行している場合 :</p> <pre>c:\novell\java\servlets\com\novell\webaccess\templates\frames</pre>

- GroupWise WebAccess サーバ上の次の場所に `templates.zip` を圧縮解除します。
`.../web-inf/classes/com/novell/webaccess/templates/css`
- `Webacc.cfg` で WebAccess のセキュリティ設定を変更します。すると、再度ログインしなくても WebAccess にメッセージが表示されるようになります。NetWare 上で、`sys:novell/webaccess/webacc.cfg` ファイルを変更します。`Security.UseClientIP.enable` を `False` に設定します。
`webacc.cfg` ファイルは、次の場所にあります。

OES/Linux Web サーバ	Open Enterprise Server と GroupWise 7 を使用している場合 : GroupWise サーバの <code>/opt/novell/groupwise/webaccess/directory</code>
NetWare Web サーバ	NetWare 6.5 と GroupWise 6.5 を使用している場合 : <code>sys:novell/webaccess</code>

- WebAccess をホストしている Tomcat インスタンスを停止し、再起動します。

Notes ポートレット

7

この章では、Notes ポートレットについて説明します。

7.1 Notes ポートレットについて

このポートレットは、表示ビューの一種です。このポートレットを使って、ブラウザから Lotus Notes の全機能にアクセスすることができます。たとえば、メッセージ、カレンダー、個人情報、会社情報などの機能があります。Notes Domino メールサーバは、電子メール、Web アクセス、オンラインカレンダー、グループスケジュール管理、共同作業用のワークスペース、および掲示板の機能を提供します。

7.2 ポートレット初期設定

Notes ポートレットの各設定項目は、次のように設定できます。

設定	説明
非表示	[非表示] をオンにすると、この設定はランタイム時に非表示になります。
必須	[必須] をオンにすると、この設定はランタイム時に必須になります。
読み込み専用	[読み込み専用] をオンにすると、この設定はランタイム時に変更できなくなります。

次の Notes 初期設定に値を設定できます。

設定項目	指定内容
Notes サーバの DNS 名または IP アドレス	Notes Domino サーバの名前または IP アドレス。クライアントコンピュータからアクセスできるアドレスを指定します。
Notes サーバ HTTP ポート	Notes Domino サーバの公開 HTTP ポート。受信可能なポートの範囲 (最小値と最大値) も指定できます。
HTTP サービスのプロトコル	Domino Server が HTTP トラフィック (HTTP または HTTPS) の処理に使用するプロトコル。

設定項目	指定内容
認証タイプ	次のうちのいずれかを選択してください： <ul style="list-style-type: none"> ◆ 基本 HTTP 認証 : Domino/iNotes サーバにログオンする際、ブラウザに認証ダイアログが表示されます。このダイアログを非表示にするには、あらかじめポートレットの初期設定エディタでユーザ名とパスワードを設定しておく必要があります。 ◆ フォームベース認証 : Domino/iNotes サーバにログオンする際、ブラウザにフォームが表示されます。設定ストアを使って、ユーザ名とパスワードを取得できます。この場合、ブラウザは、POST メソッドを使って Single Sign-on を実行します。 <p>重要な情報については、32 ページのセクション 7.3.1「基本認証と Microsoft Internet Explorer のセキュリティパッチ」を参照してください。</p>
IFrame の幅 (ピクセル単位)	たとえば、640x480 の IFrame の幅は 640 ピクセルです。
IFrame の高さ (ピクセル単位)	たとえば、640x480 の IFrame の高さは 480 ピクセルです。
ユーザ名	Domino に設定されたユーザ ID。
パスワード	Domino で設定したインターネットパスワード。
メールデータベースパス	ユーザのメールデータベースのパス (アドレス)。次の形式で指定します。 /mail/shortuserid.nsf shortuserid は 8 文字以内で指定してください。
エンコード	[メールデータベースパス] の URL パラメータのエンコードが可能な場合に、エンコードを指定します。

7.3 特記事項

この項では、Lotus Notes ユーザの認証時の注意事項について説明します。

7.3.1 基本認証と Microsoft Internet Explorer のセキュリティパッチ

Microsoft のセキュリティパッチ MS04-004 累積的なセキュリティ更新プログラムは、<http://username:password@server> という形式の URL を禁止しています。これにより、基本認証を無効にします。このパッチのアンインストールの方法については、<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;en-us;834489> (<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;en-us;834489>) を参照してください。宛先サーバで、Notes のフォームベース認証を有効にできる場合 (Notes 初期設定をフォームベース認証に設定) は、この方法がより安全な方法です。

7.3.2 フォーム認証と Notes Server R6+

R6 以上の Notes サーバでフォーム認証を行うには、*domcfg.nsf* データベースをインストールする必要があります。詳しい手順については、Notes データベース管理者用のヘルプを参照してください。

Internet Explorer のバージョンによっては、フォーム認証を行う場合、セッション Cookie を許可するようにブラウザの設定を変更する必要があります。

Webmail ポートレット

8

この章では、Webmail ポートレットについて説明します。

8.1 Webmail ポートレットについて

Webmail ポートレットを使用すると、POP3 または IMAP メールボックスにアクセスしたり、SMTP を使ってメールを送信したりできます。このポートレットには、メールクライアントに共通する機能が備わっています。

- ◆ 受信メールの一覧表示
- ◆ メールを読み取り
- ◆ メールの作成
- ◆ メールにファイルを添付
- ◆ メールの送信
- ◆ メールの削除 (IMAP のみ)
- ◆ メールの返信
- ◆ メールの転送

8.2 ポートレット初期設定

ポートレット初期設定では、サーバ接続、電子メールアドレス、表示設定、およびユーザ認証を設定できます。

Webmail ポートレットの各設定項目は、次のように設定できます。

設定	説明
非表示	[非表示] をオンにすると、この設定はランタイム時に非表示になります。
必須	[必須] をオンにすると、この設定は必須になります。必ず値を指定してください。
読み込み専用	[読み込み専用] をオンにすると、この設定はランタイム時に変更できなくなります。

次の Webmail 初期設定に値を設定できます。

設定項目	指定内容
使用するメールプロトコル	[Post-office Protocol (POP3)] または [Internet Mail Application Protocol (IMAP)] を指定します。 [選択項目] ボックスを使って、2つの候補のうち一方を削除できます。
着信メールサーバ	着信メールサーバの名前またはアドレスを指定します。
発信メールサーバ	発信メールサーバの名前またはアドレスを指定します。

設定項目	指定内容
電子メールアドレス	電子メールアドレスを指定します。 管理者は、次のように指定することで、ポータルからユーザ ID 情報を抽出できます (変数部分にはサーバ名を指定)。 \${User/simpleid}@yourwebmailserver.com
ユーザ名	Single Sign-on を有効にする管理者は、GroupWise ポートレットの [ユーザ名] オプションに次のいずれかの値を指定できます。 \${User/simpleid} \${Application/login-user}
パスワード	Single Sign-on を有効にする管理者は、[パスワード] オプションに次の値を指定できます。 \${Application/login-pass}
受信トレイ	受信ボックスの名前を指定します。GroupWise では、INBOX を使用します。それ以外のほとんどのメールサーバでは、Inbox を使用できません。
メール表示制限	表示するメールの数を指定します。表示されている範囲内の数を指定してください。表示するメールの数を制限すると、ネットワークトラフィックが制限され、メールサーバの過負荷が起こりにくくなります。また、メールの一覧が長くなりすぎるのを防ぐこともできます。 表示されているデフォルトの範囲を変更する場合は、 novell-portlet.xml ポートレット記述子ファイルに変更を加えた後、WAR を再構築して再展開します。設定インタフェースからオンラインで範囲を変更できるようにしたい場合、あるいは変更できないようにしたい場合も、 novell-portlet.xml ファイルを使って設定を変更します。ポートレット記述子ファイルのうち、 novell-portlet.xml には、Novell によって追加された拡張機能が含まれています。 portlet.xml には、JSR-169(ポートレット) 標準に準拠したプロパティが含まれています。
共通名	電子メールの送信者の欄に、電子メールアドレスの代わりに表示されます。ユーザの名前その他をポータルから抽出するには、次のいずれかを指定します。 \${User/simpleid} \${Application/login-user}

8.3 特記事項

ユーザがこのポートレットに簡単にアクセスできるようにするには、自動的にユーザを認証する Single Sign-on 機能を使用します。次のようにします。

- [ユーザ名] オプションに \${User/simpleid} または \${Application/login-user} を指定する
- [パスワード] オプションに \${Application/login-pass} を指定する

その後、Single Sign-on を有効にします。

ログインポートレットで SSO を有効にする

- 1 ユーザアプリケーションの管理者としてポータルにログインします。
- 2 [管理] タブを選択します。
- 3 [ポートレット管理] タブを選択します。

- 4 [ポートレットアプリケーション] を展開します。
- 5 [IDM] を展開します。
- 6 [IDMLoginPortlet] を展開します。
- 7 次のレベルの [IDMLoginPortlet] をクリックします。
- 8 [初期設定] タブを選択します。
- 9 [SSO を有効にする] を [True] に設定します。
- 10 [設定の保存] をクリックします。

ファイル用アクセサリポートレット



これらの章では、ネットワークファイルにアクセスするためのアクセサリポートレットについて説明します。

- ◆ 41 ページの第 9 章「NetStorage ポートレット」
- ◆ 45 ページの第 10 章「ネットワークファイルポートレット」

NetStorage ポートレット

9

この章では、NetStorage ポートレットについて説明します。

9.1 NetStorage ポートレットについて

NetStorage ポートレットを使用すると、インターネットからファイルの保存先に簡単にアクセスできます。NetStorage は、社内の保護された Novell ストレージネットワークとインターネットとの間を橋渡しします。つまりユーザは、インターネット上の任意の場所から、セキュリティ保護された手段でファイルにアクセスできます。その際、自分のワークステーションに何かをダウンロードしたり、インストールする必要はありません。ユーザは、Novell NetStorage を利用することにより、セキュリティ保護された手段を使って、インターネット接続が可能なコンピュータからファイルにアクセスできます。ユーザは、ローカルワークステーションと Novell ストレージネットワークとの間で、ファイルのコピー、移動、名前変更、削除、読み込み、および書き込みを実行できます。つまり、世界中のあらゆる場所にあるインターネット接続ワークステーションからファイルにアクセスできます。コンピュータから他のコンピュータへデータを電子メールで送ったり、コピーしたりする必要はありません。NetStorage ポートレットでは、Novell NetStorage アプリケーションへ Single Sign-on でアクセスできます。

9.2 ポートレット初期設定

NetStorage ポートレットの各設定項目は、次のように設定できます。

設定	説明
非表示	[非表示] をオンにすると、この設定はランタイム時に非表示になります。
必須	[必須] をオンにすると、この設定はランタイム時に必須になります。
読み込み専用	[読み込み専用] をオンにすると、この設定はランタイム時に変更できなくなります。

次の NetStorage の初期設定に値を設定できます。

設定項目	指定内容
NetStorage Web サーバ URL	NetStorage Web アクセスの URL。たとえば、 <code>http://myserver.com/</code> のように指定します。ポートレットが NetStorage に接続するとき使用するアドレスを指定します。ポートレットから NetStorage サーバへの Single Sign-on を有効にするには、DNS ホスト名を設定する必要があります。
参照 Web サーバ URL	キャッシングアプライアンスを使用する場合など、NetStorage の内部アドレスと外部アドレスが異なる場合に使用します。NetStorage Web サーバ URL は、ポートレットが NetStorage に接続するために使用するアドレスです。参照 Web サーバ URL は、クライアントに送信される NetStorage のアドレスです。

設定項目	指定内容
ホストサーバを使用しますか	[True] に設定した場合、クライアントはポータルにアクセスするときと同じアドレスを使って NetStorage にアクセスします。
NetStorage ローカルポート	この設定は、[ホストサーバを使用しますか] が [True] に設定されている場合にのみ適用されます。ポータル以外のポートで NetStorage サーバを実行している場合は、ここにその値を指定します。指定しなかった場合、NetStorage サーバへのアクセスには、ポータルのポートが使用されます。
NetStorage ローカルプロトコル	この設定は、[ホストサーバを使用しますか] が [True] に設定されている場合にのみ適用されます。ポータルとは異なるプロトコルを使って NetStorage サーバを実行している場合は、ここにその値を指定します。指定しなかった場合、NetStorage サーバへのアクセスには、ポータルのプロトコルが使用されます。HTTPS 設定では、ほとんどの場合、SSL ポート (通常はポート 443) を指定する必要はありません。ポートはサーバレベルで設定されます。
ユーザ名	<p>ポートレットから NetStorage への Single Sign-on を行うには、次のいずれかの値を使用します。</p> <p><code>\${User/canonical}</code></p> <p><code>\${User/simpleid}</code></p> <p><code>\${User/canonical}</code> を使用する場合は、eDirectory ツリーの組織コンテナに CN プロパティを追加します。49 ページの「CN プロパティを追加する方法」を参照してください。</p> <p>Single Sign-on を有効にする方法については、43 ページのセクション 9.3.3 「NetStorage ポートレットで SSL を使用」を参照してください。</p>
パスワード	<p>ポートレットから NetStorage への Single Sign-on を行うには、次の値を使用します。</p> <p><code>\${Application/login-pass}</code></p>

9.3 特記事項

9.3.1 NetStorage セッションの終了

NetStorage セッションを終了して、使用したファイルへのアクセスを閉じるには、NetStorage Web インタフェースの [ログオフ] ボタンをクリックします。

9.3.2 必要なファイル

NetStorage ポートレットを使用するには、portal-general/netstorage のアクセサリポートレット jar に含まれる gadget.html ファイルを、NetStorage サーバ上の次の場所に配置します。
<http://myserver.com/NetStorage/gadget.html> .

9.3.3 NetStorage ポートレットで SSL を使用

セキュアソケットレイヤ (SSL) 接続で NetStorage に接続している場合は、ポータルで実行されている JVM に証明書をインストールする必要があります。インストールしていない場合は、HTTP クライアントから接続しようとしたときに SSL 例外が発生し、信頼できる証明書を取得することはできません。

- 1 SSL を使ってブラウザから NetStorage にログインし、次の手順を実行します。
 - 1a 右下隅にあるロックアイコンをダブルクリックします。
 - 1b [詳細] タブを選択します。
 - 1c [Copy to file(ファイルにコピー)] をクリックします。
 - 1d [次へ] をクリックします。
 - 1e [base 64] を選択します。
 - 1f [次へ] をクリックします。
 - 1g *example.cer* のようなファイル名を入力します。
 - 1h [次へ] をクリックします。
 - 1i [完了] をクリックします。
 - 1j (手順 1g の) *example.cer* ファイルを、ポータルの `.../novell/idm/jre/bin` ディレクトリにコピーします。
- 2 ポータルでコマンドウィンドウを開き、`.../novell/jre/bin` ディレクトリに移動して、次のコマンドを入力します。

```
keytool -import -trustcacerts -file example.cer -keystore ../lib/security/cacerts
```
- 3 キーストアのパスワードを入力します。

```
changeit
```
- 4 証明書を信頼するかどうかを確認するプロンプトが表示されたら、**Yes** と入力します。 <Enter> キーを押します。

ネットワークファイルポートレット

10

この章では、ネットワークファイルポートレットについて説明します。

10.1 ネットワークファイルポートレットについて

このポートレットは、ファイルの保存および取得用システムです。このポートレットを使って、任意の場所からファイルにアクセスしたり、ファイルをアップロードしたりできます。ポートレットに設定されているネットワークファイルプロバイダによって、さまざまなファイルシステムにアクセスできます。ポートレットは、次のプロバイダを使用するように設定できます。

- ◆ NetWare ファイルプロバイダ (NJCL): NetWare® ボリュームのアクセス用
- ◆ CIFS プロバイダ: Linux または Windows SMB ボリュームのアクセス用

管理者は、「初期宛先」と呼ばれるトップレベルの参照を設定できます。ポートレットユーザは、ここからディレクトリ構造全体をナビゲートできます。ユーザは、サブディレクトリのショートカットを作成したり、ファイルやディレクトリを表示、追加、および削除したりできます。

10.2 ポートレット初期設定

ネットワークファイルポートレットの各設定項目は、次のように設定できます。

設定	説明
非表示	[非表示] をオンにすると、この設定はランタイム時に非表示になります。
必須	[必須] をオンにすると、この設定はランタイム時に必須になります。
読み込み専用	[読み込み専用] をオンにすると、この設定はランタイム時に変更できなくなります。

次の Network File ポートレットの初期設定に値を設定できます。

設定項目	指定内容
ナビゲーションの許可	ユーザは、CIFS または NJCL プロバイダモードで、セッションの [初期宛先]、[ユーザ名] および [パスワード] の組み合わせを変更することができます。 警告: セキュリティリスクの可能性がります。[ナビゲーションの許可] を [True] に設定した場合、正しい資格情報を持つユーザは、基本ディレクトリより高位のディレクトリ、およびネットワーク上のその他のコンピュータをナビゲートすることができます。

設定項目	指定内容
初期宛先	<p>ポートレットの基本ディレクトリ。次のいずれかの形式を使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ CIFS の場合、<code>//SMBServerName/ShareName/...</code> を使用します。 ◆ NJCL の場合、<code>//NetWareServerName/volume/directory...</code> を使用します。 ◆ NJCL の場合、<code>eDirTreeName</code> を使用します。 <hr/> <p>注： OES/Linux に IDM ユーザアプリケーションポータルを実装している場合は、NJCL 用に設定されたネットワークファイルポートレットでも RMI 機能を使用する必要があります。</p>
ショートカット	<p>ディレクトリパスのショートカット名を指定できます。ショートカットパスは、[初期宛先] で定義したパスからの相対パスで指定します。</p> <p>たとえば、[初期宛先] が <code>//MyServer/sys</code> で、ショートカットから参照されるディレクトリパスが <code>//MyServer/sys/Users/MyFolder/Shared</code> である場合、ショートカットパスは次のように指定します。</p> <p>ShortcutName=/Users/MyFolder/Shared</p>
RMI サーバアドレス	<p>ポートレットからアクセスする RMI 対応の NetWare サーバの完全修飾ホスト名または IP アドレス。非 NetWare プラットフォームでネットワークファイルポートレットを実行しているとき、NetWare ボリュームにアクセスするために使用します。NJCL プロバイダとともに使用します。CIFS/SMB ファイルシステムでは使用できません。</p>
ユーザ名	<p>認証が必要な場合、ユーザ名を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ CIFS の場合、<code>DomainName\UserName</code> または <code>UserName</code> の形式を使用する。例： MyDomain\MyUserId ◆ NJCL の場合、<code>UserName.OrganizationalUnit.Organization</code> の形式を使用する。例： MyUserId.Engineering.Company
パスワード	<p>認証用のユーザパスワード。</p>
NetworkFileProvider	<p>アクセスするファイルのタイプ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ CIFS (Common Internet File System。Linux または Windows SMB ボリューム用) ◆ NJCL (NetWare ファイルシステム用)
<hr/> <p>注： 以前に NPS ガジェットを使用したことがあるユーザは、ネットワークファイルポートレットとネットワークファイルガジェットが別のものであることに注意してください。ネットワークファイルポートレットでは、eDirectory コンテキストツリー全域のファイルにアクセスする設定はサポートしていません。</p> <hr/>	

10.3 Linux または Windows 上でネットワークファイルポートレットを実行する

Linux または Windows サーバをホストとするアプリケーションサーバ上で、ポートレットを実行して Samba または SMB アクセスボリュームにアクセスする

- 1 ポートレットの初期設定エディタで、[初期宛先] オプションに、次の例の値を指定します。//SMBServerName/ShareName/
- 2 次に、[ネットワークファイルプロバイダ] オプションで [CIFS] プロバイダを選択します。
- 3 [設定の保存] をクリックします。

10.4 Linux または Windows 上でネットワークファイルポートレットを実行して NetWare ボリュームにアクセスする

Linux または Windows 上で、ポートレットを実行して NetWare サーバのボリュームにアクセスするには、NetWare サーバ上にクライアントレスの Novell Class Libraries for Java (NJCLC) をインストールします。

これらのライブラリは NetWare サーバを有効にして、リモートメソッド起動 (RMI) プロトコルを実行します。ポートレットは、RMI プロトコルを使って、非 NetWare ポータルと NetWare サーバが対話できるようにします。NetWare/RMI サーバは、eDirectory ツリーごとに1つだけ必要です。また、RMI 呼び出しを開始するためには、非 NetWare ポータルの適切なディレクトリに *njclv2r.jar* という Java アーカイブファイルを格納する必要があります。

次に、RMI サーバを有効にする手順と、Linux または Windows から RMI サーバに接続する2つの手順を紹介します。

NetWare サーバ上の RMI サーバを有効にする

- 1 <http://developer.novell.com/ndk/njclc.htm> (<http://developer.novell.com/ndk/njclc.htm>) を開きます。「Classes for Java and JNDI Providers (NJCL) - Clientless」というページが表示されるはずですが。
- 2 「netware」 の下の次のファイルをダウンロードします。
novell-njclc-devel-2005.10.05-1netware.exe
- 3 NetWare 用の Java と Novell Client がインストールされた Windows ワークステーション上で、NetWare サーバの sys ボリュームにドライブをマップします。これが RMI サーバになります。次のファイルを実行します。
novell-njclc-devel-2005.10.05-1netware.exe
その後、インストール中に RMI サーバとして使用する NetWare サーバを選択します。
- 4 NetWare RMI サーバの *sys:/etc* ディレクトリ内に、*java.cfg* ファイルを作成します。このファイルに次のクラスパスを追加します。
CLASSPATH=sys:\java\njclv2r\lib\njclv2r.jar
- 5 *sys:/system* ディレクトリ内に *njclv2r.policy* ファイルを作成します。*njclv2r.policy* ファイルに次の行を追加します。

```
grant {
    permission java.security.AllPermission;
};
```

- 6 `sys:/system` ディレクトリ内に `startirmi.ncf` ファイルを作成します。 `startirmi.ncf` ファイルに次のコマンドを追加します。次の例のように、1行で指定してください。

```
java -Djava.security.policy=sys:\system\njclv2r.policy
com.novell.service.session.spi.SessionManagerServiceImpl
```

NetWare コンソールから手動で `startirmi.ncf` ファイルを実行し、例外が発生しないかどうか、正常に動作するかどうかを確認します。 `startirmi` コマンドの実行に失敗した場合、ポートレットは RMI サーバを認証することができず、 `NDSEException` または `LoginException` を返します。

注: `startirmi.ncf` ファイルを手動で実行し、動作を確認してから、サーバの `autoexec.ncf` に追加してください。 `startirmi.ncf` が正常にロードされた場合は、NetWare コンソールで `java -show` を実行したとき、次の Java クラスが表示されます。
`com.novell.service.session.spi.SessionManagerServiceImpl`

- 7 `autoexec.ncf` ファイルを開き、次の行を追加します。

```
search add sys:/java/njclv2r/bin
startirmi.ncf
```

- 8 NetWare サーバを再起動します。

ポータルを NetWare/RMI サーバに接続する

- 1 NetWare/RMI サーバの `sys:\java\njclv2r\lib` にある `njclv2r.jar` ファイルを、ポータルプラットフォーム上の `$JAVA_HOME$jre/lib/ext` ディレクトリにコピーします。アプリケーションサーバは、この `...jre/lib/ext` ディレクトリから Java にアクセスします。
- 2 ネットワークファイルポートレットの [ポートレット初期設定] で、[RMI サーバアドレス] オプションの値として、NetWare/RMI サーバのホスト名または IP アドレスを追加します。
- 3 [初期宛先] オプションの値を指定します。
- 4 [ネットワークファイルプロバイダ] オプションの値として [NJCL] を選択します。

10.5 ネットワークファイルポートレットの使い方のヒント

10.5.1 ポートレットを設定して、NetWare 環境のユーザのホームディレクトリにアクセスする

ネットワークファイルポートレットを使って、NetWare サーバ上にあるユーザのホームディレクトリ内のファイルにアクセスできます。このためには、iManager を使って、eDirectory 内にユーザのホームディレクトリ属性を設定します。

eDirectory 内にユーザのホームディレクトリを設定する

- 1 iManager で、[eDirectory 管理] > [オブジェクトの変更] の順に選択します。

- 2 [ユーザオブジェクト] をブラウズまたは選択します。
- 3 [ユーザオブジェクト] の [一般] タブで、[環境] リンクを選択します。
- 4 下部に、*Home* ディレクトリの [ボリューム] フィールドと [パス] フィールドが表示されます。
- 5 それぞれのフィールドに値を入力して、[OK] をクリックします。

ポートレットの設定を変更する

- 1 [初期宛先] オプションの値として、次のようにツリー名かパスを設定します。
 - ◆ *yourtreename*
 - ◆ *//yourservername/sys/home/\${User/simpleid}*
- 2 ポータルを Linux または Windows プラットフォームで実行している場合は、[RMI サーバアドレス] オプションの値を指定します。詳細については、[47 ページのセクション 10.4 「Linux または Windows 上でネットワークファイルポートレットを実行して NetWare ボリュームにアクセスする」](#) を参照してください。
- 3 [ネットワークファイルプロバイダ] オプションの値として、[NJCL] を選択します。

10.5.2 ポートレットを設定して、Linux または Windows 環境のユーザのホームディレクトリのファイルにアクセスする

ユーザのホームディレクトリに自動的に移動するには、ネットワークファイルポートレットの [初期宛先] オプションとして、*\${User/simpleid}* を使用します。次に示す例は、*\${User/simpleid}* を使ってユーザの共有名を取得する例です。ネットワークファイルプロバイダとして CIFS を使用し、Linux または Windows 用の Open Enterprise Server にアクセスしています。

```
//servername/${User/simpleid}
```

10.5.3 Single Sign-On (SSO) でスコープパスを使用

ユーザがこのポートレットに簡単にアクセスできるようにするには、自動的にユーザを認証する Single Sign-on 機能を使用します。次のようにします。

- ◆ [ユーザ名] オプションに *\${User/simpleid}* または *\${Application/login-user}* を指定する
- ◆ [パスワード] オプションに *\${Application/login-pass}* を指定する

その後、Single Sign-on を有効にします。

ログインポートレットで SSO を有効にする

- 1 ユーザアプリケーションの管理者としてポータルにログインします。
- 2 [管理] タブを選択します。
- 3 [ポートレット管理] タブを選択します。
- 4 [ポートレットアプリケーション] を展開します。
- 5 [IDM] を展開します。
- 6 [IDMLoginPortlet] を展開します。
- 7 次のレベルの [IDMLoginPortlet] をクリックします。

- 8 [初期設定] タブを選択します。
- 9 [SSO を有効にする] を [True] に設定します。
- 10 [設定の保存] をクリックします。

NJCL プロバイダ

- ◆ NJCL プロバイダで Single Sign-on を有効にする場合は、[ユーザ名] に次のように指定する。
`${User/canonical}`
- ◆ `${User/canonical}` を使用する場合は、eDirectory ツリーの組織コンテナに CN プロパティを追加する。詳細については、[50 ページのセクション 10.5.4 「CN プロパティを追加する方法」](#) を参照。
- ◆ [パスワード] に次のように指定する。
`${Application/login-pass}`
- ◆ これらの設定により期待どおりの結果が得られることをテストするには、設定内容をメッセージポートレットに追加し、メッセージポートレットにアクセスする。すると、メッセージポートレットに結果が表示される。

CIFS プロバイダ

使用する値は、ポータルにアクセスするとき使用する認証方法によって異なります。

- ◆ ログインポートレットを使ってポータルにログインする場合は、[ユーザ名] として `${Application/login-user}`、[パスワード] として `${Application/login-pass}` を指定する。
- ◆ ログインポートレットを使ってポータルにログインしない場合は、[ユーザ名] として `${User/simpleid}`、[パスワード] として `${Application/login-pass}` を指定する。
- ◆ これらの変数の結果をテストするには、変数をメッセージポートレットに追加し、メッセージポートレットにアクセスする。すると、メッセージポートレットに値が表示される。

10.5.4 CN プロパティを追加する方法

CN プロパティを追加する

- 1 iManager で、[権利] > [トラスティの変更] の順に選択します。
- 2 ツリー内の組織オブジェクトを検索して選択します。たとえば `O=Novell` を選択します。
- 3 組織オブジェクトの [割り当てられた権利] をクリックします。[プロパティの追加] をクリックします。
- 4 [プロパティの追加] ウィンドウで、[Show all properties in schema(スキーマの全プロパティを表示)] チェックボックスをオンにします。
- 5 [CN] を選択し、[OK] をクリックします。
- 6 [トラスティの変更] ページで CN プロパティを検索し、その下の [継承] チェックボックスをオンにします。
- 7 [完了] をクリックします。
- 8 [適用] をクリックします。

その他のアクセサリポートレット



これらの章では、その他のアクセサリポートレットについて説明します。

- ◆ 53 ページの第 11 章「ブックマークポートレット」
- ◆ 55 ページの第 12 章「NNTP ニュースポートレット」
- ◆ 57 ページの第 13 章「HTML ポートレット」
- ◆ 63 ページの第 14 章「HTML Message Editor ポートレット」
- ◆ 65 ページの第 15 章「IFrame ポートレット」
- ◆ 69 ページの第 16 章「メッセージポートレット」
- ◆ 71 ページの第 17 章「RSS ニュースフィードポートレット」
- ◆ 73 ページの第 18 章「ショートカット起動ポートレット」

ブックマークポートレット

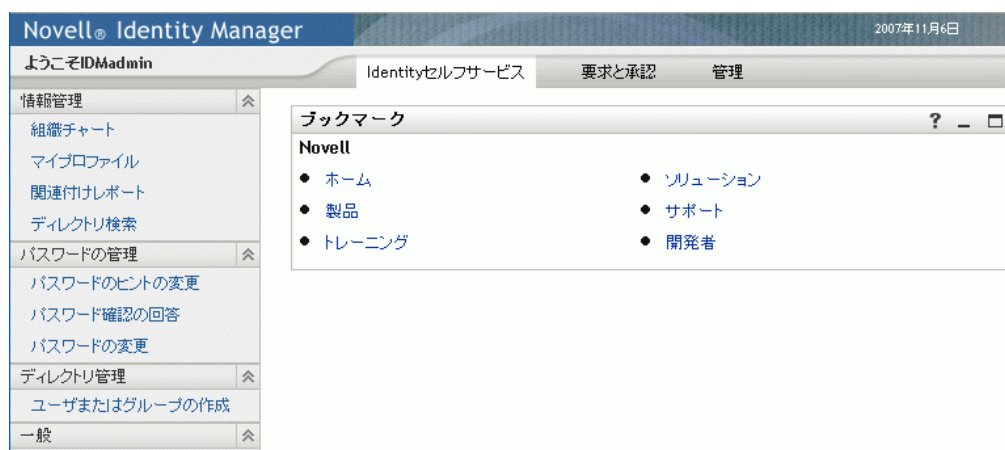
11

この章では、ブックマークポートレットの設定方法について説明します。

11.1 ブックマークポートレットについて

管理者は、ブックマークポートレットを使って、サイトのユーザが必要とする Web ページのリンクを追加することができます。各リンクは、その Web サイトの表示名およびアドレスで構成されています。ポートレットの初期設定エディタで、表示レイアウト、カラム数、およびスタイルを制御できます。

次に、サンプルのブックマークポートレットを示します。



11.2 ポートレット初期設定

ブックマークポートレットの初期設定を表示する

- 1 管理者として Identity Manager にログインします。
- 2 [管理者] タブを表示します。
- 3 対象のページを選択します。
- 4 [ページタスク] で、[コンテンツの選択] を選択します。
- 5 [フィルタ] に、[すべてのカテゴリ] または [アクセサリポートレット] を設定します。
- 6 [使用できるコンテンツ] で、[ブックマーク] をクリックします。
- 7 [追加] をクリックします。
- 8 [選択されたコンテンツ] で [ブックマーク] をクリックして、[コンテンツ初期設定] をクリックします。[コンテンツ初期設定] ダイアログボックスが表示されます。
- 9 ブックマークポートレットの各設定項目について、次の作業を行います。
 - 9a 値を設定します。
 - 9b 設定をオンにするかどうかを選択します。

設定	説明
非表示	[非表示] をオンにすると、この設定はランタイム時に非表示になります。
必須	[必須] をオンにすると、この設定はランタイム時に必須になります。
読み込み専用	[読み込み専用] をオンにすると、この設定はランタイム時に変更できなくなります。

次のブックマークポートレットの初期設定に値を設定できます。

設定項目	操作
ブックマーク (タイトル~url)	<p>ブックマークを追加する：</p> <ol style="list-style-type: none"> [追加] をクリックして、リストの末尾にブックマークを追加します。[挿入] をクリックして、現在選択しているブックマークの上にブックマークを挿入します。入力ボックスが表示されます。 新しい入力ボックスを選択します。 ブックマークのタイトル、チルダ (~)、および URL を入力します。たとえば、Yahoo~http://www.yahoo.com と入力します。リンクが相対リンク (../././PAC など) でない場合は、http://www.novell.com のように完全な URL を使用します。 <p>ブックマークを削除するには、ブックマークを選択して、その横の [削除] をクリックします。</p>
カラム数	使用するカラム数を入力します。使用できるカラム数の最小値と最大値を指定します。
幅 (ピクセル単位または %)	ページ上のポートレットの幅を指定します。ページ幅に対するパーセンテージを指定する場合は、数字の後ろにパーセント記号を付けます。たとえば 75% のように指定します。絶対幅を指定する場合は、ピクセル数を指定します。たとえば、640x480 で表示する場合の幅の 1/2 は 320 になります。
高さ (ピクセル単位)	インラインフレームの高さをピクセル単位で指定します。たとえば、640x480 で表示する場合の高さは 480 です。
境界線	各カラムの周囲の境界線のサイズ。境界線を表示しない場合は 0 を指定します。
行頭文字	記号付きリストでブックマークを表示します。
ヘッダを表示	ヘッダを表示します。
ヘッダ	ブックマークの上に表示するテキスト見出し。
ヘッダスタイル	ヘッダスタイルの設定。
ヘッダシェーディング	ヘッダの背景色。
ブックマークスタイル	ブックマークのスタイルを指定します。テーマページには、使用できるスタイルが一覧表示されます。

NNTP ニュースポートレット

12

この章では、NNTP ニュースポートレットについて説明します。

12.1 NNTP ニュースポートレット

ユーザは、NNTP ニュースポートレットを使って、お気に入りのニュースグループのリストを表示したり、ニュースグループを購読したり、好みの NNTP (ネットワークニュース転送プロトコル) ニュースサーバからお気に入りのニュースグループを選択して保存したりできます。

NNTP ニュースポートレットは、デフォルトのニュースグループリーダとして設定された外部クライアントユーティリティ (GroupWise[®]、Outlook Express、Internet Explorer など) を起動し、ニュースグループの最終アクセス日時を設定します。

このポートレットでは、編集モードを利用できます。ログインした状態で編集モードに切り替えると、ニュースグループを選択または削除したり、サーバごとに新しいニュースグループを追加したりできます。ニュースグループは複合ポートレット設定として保存されます。ポートレットでは、サーバを追加することはできません。ポートレットの初期設定エディタでは、サーバやニュースグループを追加、編集、および削除することはできません。最終アクセス日時を設定することはできません。NNTP パッケージを使用するには、アプリケーションサーバとクラスパスに *NetComponents.jar* ファイルを追加する必要があります。

12.2 ポートレット初期設定

NNTP ニュースポートレットの各設定項目は、次のように設定できます。

設定	説明
非表示	[非表示] をオンにすると、この設定はランタイム時に非表示になります。
必須	[必須] をオンにすると、この設定はランタイム時に必須になります。
読み込み専用	[読み込み専用] をオンにすると、この設定はランタイム時に変更できなくなります。

次の NNTP ニュースポートレットの初期設定に値を設定できます。

設定項目	指定内容
サーバ - ニュースグループの詳細	この複合設定の初期設定エディタを表示するには、[カスタム初期設定の表示 / 編集] リンクをクリックします。次に、ロケールを選択し、詳細を指定します (次の行を参照)。
News Server URI (ニュースサーバ URI)	ニュースサーバの URL とポートを指定します。たとえば、 <code>support-forums.novell.com</code> のように指定します。ニュースサーバを追加または削除するには、灰色表示になっている [ニュースサーバ] 行内のプラス記号または X マークをクリックします。

設定項目	指定内容
ニュースグループ ID	サーバにニュースグループを追加するには、[ニュースグループの追加] の横のプラス記号をクリックします。次に、ニュースグループ ID を指定します。ニュースグループをサーバに追加またはサーバから削除するには、薄い灰色表示になっている [ニュースグループ] 行内のプラス記号または X マークをクリックします。
ヘッダを表示	コンポーネント内のテキストヘッダを表示するには、[True] をクリックします。
ヘッダ	リンクの上に表示されるテキストヘッダを選択します。
ヘッダのスタイル?	ヘッダスタイルシートクラスを選択します。

この章では、HTML ポートレットとその設定方法について説明します。

13.1 HTML ポートレットについて

HTML ポートレットは、HTML ページのコンテンツを取得し、表示する場合に使用します。

HTML ポートレットを使って、次の操作を実行できます。

- ◆ HTML ページからコンテンツを取得する。
- ◆ *post* または *get* に URL パラメータを渡す。
- ◆ Single Sign-on を実装する。
- ◆ タグを使ってページを分割したり、必要なセクションだけを選択したりすることにより、コンテンツをパーソナライズする。
- ◆ 正規表現を使用して検索し、文字列を置換する。
- ◆ コンテンツをキャッシュし、再キャッシュの頻度を指定する。
- ◆ リンクをポータル内で開くか、別のブラウザウィンドウで開くかを指定する。

次の表では、いくつかの使用場面を紹介します。

場面	情報
ポストパラメータ	[URL 環境設定] : 手動設定 [シンプルな Web URL] : http://support.novell.com/servlet/filefinder [URL パラメータ] : name=IDM [ポスト] : True
ユーザ名に変数を使用した基本認証	[URL 環境設定] : 手動設定 [シンプルな Web URL] : http://localhost/Director/WebDAV/folder/file.html [基本認証を使用する] : True [ユーザ名] : \${User/id} [パスワード] : admin
代替文字列によるフラッシュオブジェクトの削除	[URL 環境設定] : 手動設定 [シンプルな Web URL] : http://www.novell.com [データの解析] : True [URL コンテンツ内の検索 / 置換文字列] : <object~<!--object</object>~</object-->

場面	情報
文字エンコード	[URL 環境設定] : 手動設定 [シンプルな Web URL] : http://chinese.yahoo.com [文字のエンコード] : BIG5

13.2 ポートレット初期設定

HTML ポートレットでは、固有のオプションを使って設定をパーソナライズできます。各設定項目の詳細については、ポートレットの初期設定エディタで [説明を表示する] をクリックしてください。ウィザードを使って、URL と URL パラメータの設定を保存したり、ページを分割したりできます (60 ページのセクション 13.3.1 「ウィザードの使用」を参照)。ウィザードの設定を有効にするには、[URL 環境設定] を [ウィザードで生成した環境設定] に設定する必要があります。

HTML ポートレットの各設定項目は、次のように設定できます。

設定	説明
非表示	[非表示] をオンにすると、この設定はランタイム時に非表示になります。
必須	[必須] をオンにすると、この設定はランタイム時に必須になります。
読み込み専用	[読み込み専用] をオンにすると、この設定はランタイム時に変更できなくなります。

次の HTML ポートレットの初期設定に値を設定できます。

設定項目	指定内容
URL 環境設定	URL、パラメータ、post 値の定義に、ウィザードを使用するか手動で設定するかを指定します。
ウィザード	カスタム設定を表示するか編集するかを選択します。ウィザードは、URL や URL パラメータを保存し、ターゲットの Web ページを複数のコンテンツ領域に分割する場合に使用します。これらの領域を個別に選択して、HTML ポートレットウィンドウに表示することができます。ウィザードで生成した環境設定を使用する場合、このオプションは必須です。
完全修飾の Web URL	表示する HTML ポートレットの URL。HTTP、HTTPS のような URL スキーマ (プロトコル) が含まれている必要があります。手動で設定する場合、このオプションは必須です。\$SPORTLET_AUTH_ID\$ または \$SPORTLET_AUTH_PWD\$ 代替文字列を使用する場合、ここで URL を変更します。URL を変更してウィザードを再実行するには、[再起動] アイコンをクリックします。
URL へ渡すパラメータ	NAME=VALUE の形式で URL パラメータを指定し、渡します。ポートレットの認証資格情報を渡す場合は、\$SPORTLET_AUTH_ID\$ および \$SPORTLET_AUTH_PWD\$ 代替文字列を使用します。[ユーザ名] と [パスワード] の値を使用します。 このパラメータは手動で設定するときに使用します。

設定項目	指定内容
URL パラメータのエンコード	UTF-8 が適切な場合に、この文字セットを使って URL パラメータをエンコードするかどうかを指定します。
URL へ「POST」を実行する	ポートレットが URL に対して POST と GET のどちらを実行するかを指定します。手動で設定するときに適用されます。
データの解析およびリンクの変更	<p>ポートレットが HTML コンテンツを解析するかどうかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ [True] の場合、ポートレットは HTML コンテンツに含まれる関連リンクを調整します。ユーザは、[リンク先] に有効な任意の値を指定できます。 ◆ [False] の場合、ポートレットは HTML コンテンツをそのまま表示します。ユーザは、[リンク先] に [Leave (そのまま)] を指定して、リンクが変更されないようにする必要があります。サーバを最適化するには、このパラメータを [False] に設定して、ポートレットを使用してページが表示できるかどうかを確認します。
リンク先	クリックしたときにリンクが表示される場所を指定します。[データの解析およびリンクの変更] で [False] を選択した場合は、[Leave (そのまま)] を選択してリンクが変更されないようにする必要があります。
相対パスの解析中に使用する URL ホスト	相対パスの解析中に使用する URL ホストを指定します。たとえば <code>www.wtcrelief.info</code> などを指定します。
相対パスの解析中に使用する URL プロトコル	相対パスの解析中に使用する URL スキーム (プロトコル) を指定します。HTTP、HTTPS などがあります。
相対パスの解析中に使用する URL 相対パス	相対パスの解析中に使用する URL 相対パスを指定します。次のように、先頭と末尾の文字はスラッシュ (/) になります。 <code>/Charities/Information/pages/</code>
Cookie をブラウザに転送する	<p>[リンク先] で [別のウィンドウ] を選択した場合に、Cookie を転送するかどうかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ [True] の場合は、別のブラウザウィンドウが開き、最大化された HTML ポートレット内にリンクのコンテンツが表示されます。 ◆ [False] の場合は、別のブラウザウィンドウが開き、そこに直接リンクのコンテンツが表示されます。[リンク先] で [ポートレット内] または [最大化されたポートレット内] を選択した場合、Cookie は常に転送されます。
文字のエンコード	この URL の文字エンコードを指定します。この設定は、文字が正常に表示されない場合に使用します。
基本認証を使用する	URL が基本認証パラメータを転送する場合は [True] を選択します。[True] を選択した場合は、基本認証用のユーザ名とパスワードも指定します。
ユーザ名	ターゲット URL が基本認証を必要とする場合や、代替認証文字列を使用する場合に、ポートレットが渡すユーザ名を指定します。ポータルのマクロも使用できます。たとえば、ポータル ID を渡す場合は、 <code>\${User/id}</code> と指定できます。ログインポートレットで SSO が有効になっている場合は、 <code>\${Application/login-user}</code> と指定できます。[基本認証を使用する] を [True] に設定している場合は必須です。

設定項目	指定内容
パスワード	ターゲット URL が基本認証を必要とする場合や、代替認証文字列を使用する場合に、ポートレットが渡すパスワードを指定します。ポータルのマクロも使用できます。たとえば、ログインポートレットで SSO が有効になっている場合は、 <code>\${Application/login-pass}</code> と指定できます。[基本認証を使用する] を [True] に設定している場合は必須です。
URL コンテンツ内の検索 / 置換文字列	検索条件に続いて、「~」と置換文字列を入力します。検索条件では、正規表現を使用できます。たとえば、 <code>nove?!+.com~something else</code> のように入力できます。
BODY タグ内でのみ html を表示します	Java Portlet 1.0 仕様に準拠する場合は [True] を指定します。ただし、この場合、HEAD タグ内のスクリプトとスタイルの指定がすべて失われます。このオプションで [True] を設定する場合は、[データの解析およびリンクの変更] でも [True] を設定する必要があります。
すばやく表示するために URL をキャッシュする	HTML コンテンツをすばやく表示するため、ポートレットで HTML コンテンツをキャッシュするかどうかを指定します。 [ウィザードで生成した環境設定] を選択していて、必要なセクションだけを表示するようにウィザードを分割している場合は、[False] を設定します。
キャッシュをリフレッシュする頻度 (分)	HTML のキャッシュデータの有効期限が切れるまでの時間を分単位で指定します。[すばやく表示するために URL をキャッシュする] で [True] を選択した場合は必須です。
フォーム送信に対して post を実行する	HTML フォームが post メソッドを使用する場合は [True] を指定します。HTML フォームが get メソッドを使用する場合は [True] を指定します。

13.3 特記事項

13.3.1 ウィザードの使用

設定ウィザードを使用する

- 1 ポートレットの初期設定エディタの [URL 環境設定] で、[ウィザードで生成した環境設定] を設定します。
- 2 ウィザードの設定にアクセスします。
- 3 新しい URL を入力する場合は、[再起動] をクリックします。
- 4 開始 URL を入力し、[続行] をクリックします。
- 5 ページをナビゲートし、目的のページで [続行] をクリックします。
- 6 完了したら、設定を保存するか、[分割 - ページ] をクリックします。
- 7 別のタグで分割したい場合は、[開始タグ] と [終了タグ] の値を変更して、[再起動 - 分割] をクリックします。
- 8 目的のレベルに分割されるまで、[分割 - 小文字] をクリックすることができます。

- 9 完了したら、セクションの横のチェックボックスをオンにし、[終了 - 分割] をクリックします。
- 10 [保存] をクリックします。リストビューに戻り、[設定の保存] をクリックします。

この章では、HTML Message Editor ポータルレットについて説明します。

14.1 HTML Message Editor ポータルレットについて

HTML Message Editor ポータルレットは、HTML ページやプレーンテキストページを作成、編集、または表示する場合に使用します。

14.2 ポータルレット初期設定

HTML Message Editor ポータルレットでは、固有のオプションを使って、多くの設定をパーソナライズできます。各設定項目の詳細については、ポータルレットの初期設定エディタで [説明を表示する] をクリックしてください。

HTML Message Editor ポータルレットの各設定項目は、次のように設定できます。

設定	説明
非表示	[非表示] をオンにすると、この設定はランタイム時に非表示になります。
必須	[必須] をオンにすると、この設定はランタイム時に必須になります。
読み込み専用	[読み込み専用] をオンにすると、この設定はランタイム時に変更できなくなります。

次の HTML メッセージエディタポータルレットの初期設定に値を設定できます。

設定項目	指定内容
表示モードのメッセージ	メッセージの作成を開始するには、[カスタム初期設定の表示 / 編集] をクリックします。次に、ロケールを選択し、[開始] をクリックして、メッセージを作成します。詳細については、 64 ページのセクション 14.2.1「メッセージの編集」 を参照してください。
スタイルシート	ページのスタイルシートを指定します。
高さ	インラインフレームの高さをピクセル単位で指定します。たとえば、640x480 で表示する場合の高さは 480 です。
幅	ページのポータルレットの幅を指定します。ページ幅に対するパーセンテージを指定する場合は、数字の後ろにパーセント記号を付けます。たとえば 75% のように指定します。絶対幅を指定する場合は、ピクセル数を指定します。たとえば、640x480 で表示する場合の幅の 1/2 は 320 になります。

14.2.1 メッセージの編集

メッセージを編集する

- 1 HTML Message Editor ポートレットの初期設定ウィンドウを開きます。
- 2 [カスタム初期設定の表示 / 編集] をクリックします。
- 3 ドロップダウンリストからロケールを選択し、[開始] をクリックします。
- 4 テキスト領域をクリックします。ページの作成と編集には、パレット内のテキスト領域と、[カスタムドロップダウンテキスト] メニューなどのツールを使用します。
- 5 必要に応じて、カスタムコントロールを作成、編集、または削除します。64 ページのセクション 14.2.2 「カスタムコントロール」を参照してください。
- 6 メッセージの HTML ソースを表示し、編集する場合は、[ソースの表示] チェックボックスをオンにします。[ソースの表示] チェックボックスをオフにすると、表示モードに戻ります。
- 7 変更を保存しないで設定画面に戻る場合は、[リストビューに戻る] をクリックします。変更を保存する場合は、[保存] をクリックしてから、[リストビューに戻る] をクリックして設定画面に戻ります。

14.2.2 カスタムコントロール

メッセージを編集する際、メッセージ内で使用するテキスト文字列や関数を保存できません。このためには、カスタムキーを作成し、値 (テキスト文字列や関数) を割り当てます。

新しいカスタムコントロール項目を追加する

- 1 [カスタムドロップダウンテキストメニューの定義] 領域の [カスタムキー] の下に、キーとして使用するテキストを入力します。
- 2 キーに割り当てる値を入力します。
- 3 [追加] をクリックします。[カスタムドロップダウンテキスト] ドロップダウンボックス内に新しいキーが表示されます。カスタムキーがすでに存在する場合は、新しく追加した値によって古い値が上書きされます。[カスタムドロップダウンテキスト] に name 変数を追加する場合は、 $\$[path]$ を使用してください。 $\${path}$ は使用しないでください。

カスタムコントロール項目を削除する

- 1 [カスタムドロップダウンテキストメニューの定義] 領域の [カスタムキー] の下に、削除するキーを入力します。
- 2 [削除] をクリックします。

この章では、iFrame ポートレットについて説明します。

15.1 iFrame ポートレットについて

iFrame ポートレットは、ポートレットの iFrame コントロール内に URL を呼び出します。

このポートレットは、パラメータと変数を含む式を渡す機能をサポートすることにより、Single Sign-on を実装しています。ポートレットを介してリンクにアクセスするユーザは、この Single Sign-on を利用して、ポータルから自動的にサインインして、認証の必要な Web ページを表示することができます。

15.2 ポートレット初期設定

iFrame ポートレットの各設定項目は、次のように設定できます。

設定	説明
非表示	[非表示] をオンにすると、この設定はランタイム時に非表示になります。
必須	[必須] をオンにすると、この設定はランタイム時に必須になります。
読み込み専用	[読み込み専用] をオンにすると、この設定はランタイム時に変更できなくなります。

次の iFrame 初期設定に値を設定できます。

設定項目	指定内容
URL	iFrame ポートレットに表示される URL。リンクが相対リンク (..././../PAC など) でない場合は、http://www.yahoo.com のような URL スキーマを指定します。
URL/ フォームパラメータ	NAME=VALUE (mode=edit など) の形式で URL パラメータを指定します。[Form Post の選択?] が [True] に設定されている場合、これらのパラメータは非表示フォームフィールドとして宛先の URL に送信されます。[True] に設定されていない場合は、URL パラメータとして渡されます。ポートレット認証資格情報は、次の代替文字列を使って「ポスト」に渡すことができます ([Form Post の選択?] を [True] に設定)。\$PORTLET_AUTH_ID\$ と \$PORTLET_AUTH_PWD\$
URL パラメータのエンコード	[エンコード] の設定が適切な場合は、これを使って指定の URL パラメータをエンコードします。
エンコード	URL パラメータのエンコードを指定します。

設定項目	指定内容
Form Post の選択 ?	<p>ポートレットが URL に対して post と get のどちらを実行するかを指定します。</p> <p>[Form Post の選択 ?] が [True] に設定されている場合、フォームの非表示入力フィールドから指定の URL にパラメータがポストされます。たとえば、post が [True] に設定されていて、宛先サーバがフォームベース認証を実装している場合、次の post パラメータで認証を利用できます。username=myusername, password=mypassword</p> <p>[Form Post の選択 ?] と [認証を要求] の両方が [True] に設定されている場合、[ユーザ名] フィールドと [パスワード] フィールドの値は必須になります。これらの値として代替文字列を指定し、フォームベース認証で使用することができます。たとえば、username=\$PORTLET_AUTH_ID\$ と password=\$PORTLET_AUTH_PWD\$ を指定することにより、フォームパラメータ username=usernamefieldvalue と password=passwordfieldvalue をポストすることができます。代替文字列を使用すると、パスワードを保存する必要がなくなります。</p>
認証を要求	<p>Microsoft のセキュリティパッチ MS04-004 累積的なセキュリティ更新プログラムは、基本認証を無効にします ([認証を要求] を [True]、[Form Post の選択 ?] を [False] に設定)。このため、http://username:password@server という形式の URL を禁止します。このパッチのアンインストールの方法については、http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;en-us;834489 (http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;en-us;834489) を参照してください。宛先サーバでフォームベース認証 ([Form Post の選択] と [認証を要求] を [True] に設定) を有効にできる場合は、この方法がより安全な方法です。</p>
ユーザ名	<p>基本認証またはフォームベース認証を使用するときに渡されるユーザ名。ポータルのマクロも使用できます。たとえば、ポータル ID を渡す場合は、 \${User/id} と指定できます。</p>
パスワード	<p>基本認証またはフォームベース認証を使用するときに渡されるパスワード。</p>
高さ (ピクセル単位)	<p>インラインフレームの高さをピクセル単位で指定します。たとえば、640x480 のフレームの高さは 480 です。</p>
幅 (ピクセル単位または %)	<p>インラインフレームの幅をピクセル単位またはパーセンテージで指定します。たとえば、640x480 のフレームの幅は 640 です。パーセンテージで指定する場合は、「100%」のように数値の後ろにパーセント記号を付けます。</p>
余白の高さ (ピクセル単位)	<p>フレームのコンテンツの上下余白のスペースを指定します。</p>
余白の幅 (ピクセル単位)	<p>フレームのコンテンツの左右余白のスペースを指定します。</p>
境界線	<p>iFrame コントロールの周囲に境界線を表示する場合は、[True] チェックボックスをオンにします。</p>
スクロールバー	<p>iFrame コントロール内でのコンテンツのスクロールを有効にします。</p>
iFrame テキストリンクではありません	<p>ブラウザによっては、iFrame タグをサポートしていないものもあります。このメッセージは、iFrame 未対応ブラウザで、URL 初期設定のハイパーテキストリンクとして表示されます。</p>

15.3 特記事項

この項では、Microsoft Internet Explorer で iFrame ポートレットを使用する上での特記事項について説明します。

15.3.1 基本認証と Microsoft Internet Explorer のセキュリティパッチ

Microsoft のセキュリティパッチ MS04-004 累積的なセキュリティ更新プログラムは、<http://username:password@server> という形式の URL を禁止することによって基本認証を無効にします。このパッチのアンインストールの方法については、<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;en-us;834489> (<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;en-us;834489>) を参照してください。宛先サーバでフォームベース認証 (Exchange *post* と *auth* を [True] に設定) を有効にできる場合は、この方法がより安全な方法です。

メッセージポートレット

この章では、メッセージポートレットについて説明します。

16.1 メッセージポートレットについて

メッセージポートレットは、HTML または通常のテキストでメッセージを作成し表示する場合に使用します。メッセージポートレットのインスタンスには、[管理者]、[ようこそ]、[サンプル]、[タスク] があります。

HTML のメッセージは、Web ブラウザでの表示と同じような形式でポートレットに表示されます。ポートレットの高さと幅は、ポートレットの初期設定エディタで設定できます。

各設定項目には、代替パラメータとして、特定の変数を含む式 (ポータルのマクロ) を指定できます。

16.2 ポートレット初期設定

メッセージポートレットでは、固有のオプションを使って設定をパーソナライズできます。この項では、個々の設定項目について詳しく説明します。ポートレットの初期設定エディタで [説明を表示する] をクリックしても、同様の説明を参照できます。

メッセージポートレットの各設定項目は、次のように設定できます。

設定	説明
非表示	[非表示] をオンにすると、この設定はランタイム時に非表示になります。
必須	[必須] をオンにすると、この設定はランタイム時に必須になります。
読み込み専用	[読み込み専用] をオンにすると、この設定はランタイム時に変更できなくなります。

次の Message ポートレットの初期設定に値を設定できます。

設定項目	指定内容
メッセージ	<p>メッセージの作成を開始するには、[カスタム初期設定の表示 / 編集] をクリックします。次に、ロケールを選択し、[開始] をクリックして、メッセージを作成します。</p> <p>ポートレットに表示するメッセージには、テキスト、HTML マークアップ、およびポータルのマクロを使った代替構文を含めることができます。たとえば、メッセージにユーザの姓名を含める場合、次のような構文を使用できます。Welcome back \${User/fname} \${User/lname} コンテンツ管理システムから取得したコンテンツを含める場合、次のような構文を使用できます。\${CM/default/MyFolder/MyPage.html}</p>
高さ	メッセージが表示される表の高さをピクセル単位で指定します。

設定項目	指定内容
幅	メッセージが表示される表の幅をピクセル単位で指定します。

この章では、RSS ニュースフィードポートレットについて説明します。

17.1 RSS ニュースフィードポートレット

RSS ニュースフィードポートレットには、RSS フィードへ情報を発行したり、RSS フィードから情報を購読したりする *RSS* メカニズムが備わっています。

RSS ニュースフィードポートレットは、*Resource Description Framework (RDF)* を使用します。RDF には、リソースの作成者、作成日または更新日、およびサイト上のページの編成図 (サイトマップ) が含まれます。読者やコンテンツ評価、検索エンジンによるデータ収集に使用されるキーワード、話題のカテゴリなどについて、その内容を説明する情報を含めることもできます。

多くの Web コンテンツプロバイダは、RDF データを使って、Web コンテンツに関する *RDF Site Summary (RSS)* ファイルを作成し、このデータを RSS フィードとして提供しています。RSS ニュースフィードポートレットには、RSS フィードへ情報を発行したり、RSS フィードから情報を購読したりする *RSS* メカニズムが備わっています。ポートレットの設定により、複数の RSS フィードからのコンテンツを表示できます。ポートレットには、定義済みの各 RSS フィードからのトピックと項目が、1つの画面上に表示されます。ユーザが固有の RSS フィードを選択して設定することもできます。

ポートレットは、RSS バージョン 0.91、1.0、および 2.0 の拡張をサポートしています。

17.2 ポートレット初期設定

RSS ポートレットの各設定項目は、次のように設定できます。

設定	説明
非表示	[非表示] をオンにすると、この設定はランタイム時に非表示になります。
必須	[必須] をオンにすると、この設定はランタイム時に必須になります。
読み込み専用	[読み込み専用] をオンにすると、この設定はランタイム時に変更できなくなります。

次の RSS ポートレットの初期設定に値を設定できます。

設定項目	指定内容
アイテム数	各チャンネルに表示されるアイテム数を指定します。表示されるアイテム数を範囲で指定することもできます。
新規ブラウザウィンドウで開きます	リンク先を新規ブラウザウィンドウで開く場合は、[True] をクリックします。
ニュースの説明を表示する	バージョン 0.91 のフィードのみ。個々のニュースアイテム説明のヒントを表示する場合は、[True] をクリックします。

設定項目	指定内容
ユーザニュースフィード URL	ニュースフィードプロバイダから取得するニュースフィードファイル (.xml) の URL を指定します。ユーザニュースフィードは、[ユーザフィードのリフレッシュ頻度] の設定によりポートレットレベルでキャッシュされます。
ニュースフィードの最大ユーザ数	ユーザに許可する最大 URL 数を指定します。値の範囲を指定することもできます。
ユーザフィードのリフレッシュ頻度 (分)	ユーザニュースフィードが再ロードされるまでの時間を分単位で指定します。
システムニュースフィード URL	<p>ニュースフィードに、システムで制御される URL を指定します。通常、管理者レベルで設定します。</p> <p>新しい入力ボックスを挿入する場合は、[挿入] または [追加] をクリックします。エントリを削除する場合は、[削除] をクリックします。</p> <p>管理者は、この設定を定義時または登録時に更新できます。こうすることにより、この設定を非表示にしたり、他のユーザが登録済みのポートレットインスタンス内で変更することを防いだりできます。システムニュースフィードは、[システムフィードのリフレッシュ頻度] の設定によりフレームワークレベルでキャッシュされます。</p>
システムフィードのリフレッシュ頻度 (分)	システムニュースフィードが再ロードされるまでの時間を分単位で指定します。値の範囲を指定することもできます。
ニュースフィードの最大システム数	システムに許可する最大 URL 数を指定します。値の範囲を指定することもできます。

ショートカット起動ポートレット

18

この章では、ショートカット起動ポートレットについて説明します。

18.1 ショートカット起動ポートレットについて

ショートカット起動ポートレットは、Web リソースおよびローカルアプリケーションへのショートカットリンクのリストを生成します。ショートカットリンクには、次の特長があります。

- ◆ シンプルな Web リンク。
- ◆ Windows の *calc.exe* やサーバ起動などのローカルアプリケーションにリンクする。リンクを使ってローカルアプリケーションパラメータを渡すことができる。
- ◆ 基本HTTP 認証を必要とする Web サイトまたはローカル Web アプリケーションにリンクする。リンクにはポータルのマクロを含めることができる。
- ◆ ポータルのマクロなどのパラメータを指定して、URL へ「POST」を実行する。
- ◆ 資格情報を収集するフォームにリンクする。
- ◆ ユーザは資格情報をリセットできる。

ポートレットとリンクをフォーマットするには、ショートカット起動ポートレットの初期設定を行います。

18.2 ポートレット初期設定

ショートカット起動ポートレットの各設定項目は、次のように設定できます。

設定	説明
非表示	[非表示] をオンにすると、この設定はランタイム時に非表示になります。
必須	[必須] をオンにすると、この設定はランタイム時に必須になります。
読み込み専用	[読み込み専用] をオンにすると、この設定はランタイム時に変更できなくなります。

次の値を設定します。

コンテンツの設定	操作
レイアウト	ショートカットリンクを上下に並べて表示するか左右に並べて表示するかを決定します。
ショートカットリンクの詳細	[カスタム初期設定の表示 / 編集] をクリックします。次に、[ショートカットリンクの詳細] でロケールを選択し、[開始] をクリックします。ポートレットの初期設定エディタが表示されます。

ショートカットリンクの詳細にアクセスすると、次のようにポートレットの初期設定エディタにリンクが表示されます。



ショートカットリンクの追加、削除、並べ替え、または編集には、初期設定エディタを使用します。

リンクリストの編集内容	操作
リンクの追加	[Web リンクの追加] ボタンをクリックします。
リンクの削除	赤い [X] アイコンをクリックします。
リスト内の位置の変更	上向きまたは下向きの矢印アイコンをクリックします。
リンク名の編集	リンク名フィールドをクリックし、テキスト文字列を編集します。
リンクの設定の編集	リンクの [詳細] をクリックします。

リンクの [詳細] をクリックした後、次の値を設定できます。

ショートカットリンクの詳細設定	操作
イメージ	リンクアイコンとして使用するイメージの相対 URL または絶対 URL を入力します。
補足説明	リンクの下に表示される補足説明を入力します。
URL	このリンクの URL を入力します。Web アプリケーションを起動する場合、ここの値を入力します。絶対 URL か、アプリケーションの相対 URL を使用できます。

URL/ ポストパラメータ

NAME=VALUE の形式で URL パラメータを指定します。たとえば **mode=edit** と指定します。

[Form Post の選択?] が [True] に設定されている場合、これらのパラメータは非表示フォームフィールドとして宛先の URL に送信されます。[True] に設定されていない場合は、URL パラメータとして渡されます。ポートレット認証資格情報は、次の代替文字列を使って「ポスト」で渡すことができます ([Form Post の選択?] を [True] に設定)。\$SPORTLET_AUTH_ID\$ と \$SPORTLET_AUTH_PWD\$

URL のエンコード

[エンコード] の設定が適切な場合、これを使って指定の URL パラメータをエンコードします。

エンコード

URL パラメータのエンコード。

ポスト

ポートレットが URL に対して POST と GET のどちらを実行するかを指定します。[Form Post の選択?] が [True] に設定されている場合、フォームの非表示入力フィールドから指定の URL にパラメータがポストされます。たとえば、[Form Post の選択?] が [True] に設定されていて、宛先サーバがフォームベース認証を実装している場合、次の **post** パラメータで認証を利用できます。**username=myusername, password=mypassword** [Form Post の選択?] と [認証を要求] の両方が [True] に設定されている場合、[ユーザ名] フィールドと [パスワード] フィールドの値は必須になります。これらの値として代替文字列を指定し、フォームベース認証で使用することができます。たとえば、**username=\$SPORTLET_AUTH_ID\$** と **password=\$SPORTLET_AUTH_PWD\$** を指定することにより、**フォームパラメータ username=usernamefieldvalue** と **password=passwordfieldvalue** をポストすることができます。代替文字列を使用すると、パスワードを保存する必要がなくなります。

認証を要求

認証を要求するかどうかを指定します。

ユーザまたは管理者が指定したリンクに基本認証を指定し、資格情報 (ユーザ名とパスワード) を入力した場合、ショートカットのポップアップに資格情報を指定する必要はありません。

ユーザまたは管理者が指定したリンクに基本認証を指定し、資格情報 (ユーザ名とパスワード) を入力しなかった場合、リンクを起動するときにフォームが表示されます。ユーザは、資格情報をセッション中のみ保持するか永久に保持するかを選択できます。セッション中のみ保持する場合、現在のブラウザセッションが終了するまで資格情報を入力する必要はありません。

認証と MS Internet Explorer の対話については、[77 ページのセクション 18.3.3 「基本認証と Microsoft Internet Explorer のセキュリティパッチ」](#) を参照してください。

ユーザ

基本認証またはフォームベース認証を使用するときに渡されるユーザ名。ポータルのマクロも使用できます。たとえばポータル ID を渡す場合、**#{User/id}** と指定します。

パスワード

基本認証またはフォームベース認証を使用するときに渡されるパスワード。

ショートカットリンクの詳細設定	操作
高さ	ショートカットから開くウィンドウの高さをピクセル単位で指定します。何も指定しなかった場合、デフォルトの高さのウィンドウが開きます。有効な整数値を指定してください。
幅	ショートカットから開くウィンドウの幅をピクセル単位で指定します。何も指定しなかった場合、デフォルトのサイズのウィンドウが開きます。有効な整数値を指定してください。
リンクの非表示	ポートレットにポストバックすることでユーザ画面の URL を非表示にします。
自動起動	[True] を選択すると、ポータルページのロード時にリンクが起動します。
ウィンドウ名	ウィンドウ名を指定すると、同じ名前の既存のウィンドウ内にショートカットが表示されます。
ウィンドウ機能	JavaScript の <code>window.open()</code> 。たとえば、スクロールバーを選択すると、必要に応じて、スクロールバーを含むウィンドウが起動します。タイトルバーは認識されない場合があります。

18.3 特記事項

この項では、依存関係、認証ショートカットの使用例、および Microsoft Internet Explorer の認証セキュリティパッチの効果について説明します。

18.3.1 依存関係

`resourceset.xml` ファイルには、次の項目が含まれている必要があります。

```
<ext active="true">.CAB</ext>
```

18.3.2 ショートカットの認証

次の表に、ショートカットの認証例を示します。

場面	情報
基本認証	基本認証パラメータを入力します。ショートカットポップアップに、資格情報を入力する必要はありません。
資格情報を要求しない基本認証	<p>基本認証を指定しますが、ユーザ名とパスワードは指定しません。ショートカットリンクをクリックすると、資格情報の入力フォームが表示されます。共有ページには、個々の設定も格納することができます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 資格情報を保存する設定にした場合、新しいブラウザセッションの開始時も資格情報を再入力する必要はありません。何も入力しなくてもウィンドウが表示されます。 資格情報を保存しない設定にした場合、資格情報は現在のセッションが終了するまで保持されますが、新しいセッションの開始時にはクリアされます。

場面	情報
資格情報のリセット	基本認証の資格情報が保存されている場合 (セッションに保存、または設定として保存)、そのショートカットリンクの横に矢印アイコンが表示されます。ユーザは、このボタンを使って資格情報をリセットすることができます。
ポスト	ショートカット URL へのポストパラメータを指定します。適切なページがポップアップとして表示されます。
ユーザ資格情報の保存に関する検証	<ol style="list-style-type: none"> 1. セッションまたは設定にユーザ名が含まれている場合、フォームにそのユーザ名が渡されるはずですが。 2. パスワードと確認用パスワードの不一致が起きないようにします。 3. 省略されたフィールドを特定します。
複合設定項目の検証	<ol style="list-style-type: none"> 1. ユーザは、URL とアプリケーションパスの両方を入力することはできません。 2. [高さ] と [幅] の両方のフィールドを空にするか、両方に整数値を追加する必要があります。 3. URL パラメータのタイプは、parameter=value の形式で指定します。 4. 説明が必要です。 5. ユーザは、POST を選択するか、基本認証を [True] に設定できます。この結果、認証置換文字列を含むパラメータ内に、\$PORTLET_AUTH_ID\$ や \$PORTLET_AUTH_PWD\$ のような認証資格情報がポストされます。 6. [ウィンドウ名] にスペースを含めることはできません。
ユーザ名、パスワードなどのリンクパラメータには、ポータルのマクロを指定できます。	たとえば、ポータル ID を渡す場合、 \${User/id} と指定します。

18.3.3 基本認証と Microsoft Internet Explorer のセキュリティパッチ

Microsoft のセキュリティパッチ MS04-004 累積的なセキュリティ更新プログラムは、<http://username:password@server> という形式の URL を禁止することによって基本認証を無効にします。このパッチのアンインストールの方法については、<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;en-us;834489> (<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;en-us;834489>) を参照してください。宛先サーバでフォームベース認証 ([Form Post の選択] と [認証を要求] を [True] に設定) を有効にできる場合は、この方法がより安全な方法です。